

特 116  
346



始



2  
2

特 116

344

東京府青山師範學校附屬小學校編

尋常小學裁縫教授細目

隆文館株式會社發行

116  
346

東京府青山師範學校附屬小學校編



裁縫教授細目

15. 8. 3  
内交

隆文館株式會社發行

## 凡 例

- 一 本細目は尋常小學校多級單式學級用として編纂したものである。
- 一 教材の範圍は廣きに亘るを避け、まづ運針練習を始として襦袢の各種類より大小男女單衣、帶等の裁ち方、積り方、縫ひ方、繕ひ方に習熟させ、かねて衣服材料の種類、性質、衣類の保存洗濯方を教示することとした。
- 一 教材は専ら實物大に縫はせることとした。但止むを得ず雛形によらせるときは實物の二分の一とする。
- 一 教授の順序は先づ各部分の縫ひ方、裁ち方を實物若しくは掛圖等で精確に會得させ然る後總合縫をさせることとした。
- 一 尋常科第四學年で購入させた運針用布は尋常科の終りまで使用させるものである。

# 第四學年裁縫教授細目

## 教材配當表

週	第一學期	十五週	三十時間	備
第一週	裁縫用具の名稱及用法並整理	二時間	針針刺鉸篋指貫糸卷米尺針箱等。	
第二週	運針法及其姿勢	一時間	針及用布。	
自第二週至第四週	運針練習	四時間	裁縫用具及用布。	
第一週	1 素縫			
第二週	2 糸の結び方 イ留結	一時間	結び方の標本及紐用具。	
第三週	3 本縫	二時間	裁縫用具及用布。	
第四週	4 糸の留方 イうち留	一時間	留方の掛圖及標本用具。	
第五週	5 糸の繼ぎ方 イかさねつぎ	一時間	繼ぎ方の掛圖及標本用具。	
第六週	6 糸の結び方 ロ機結	二時間	結び方の標本及紐用具。	
第七週	7 糸の留方 ロかへし留	二時間	留方の標本及掛圖及標本用具。	
第八週	ハ抄ひ留	二時間		

第四學年裁縫教授細目

記入欄		第二學期	
第九週	8 糸の織ぎ方 口結びつき 雑巾	二時間	織ぎ方の掛圖及標本用具。
自第十週 至第十二週	各種の縫ひ方	五時間	雑巾刺し方各種の標本。
自第十三週 至第十三週	1 袋縫(糠袋)	二時間	袋縫の標本及糠袋。
自第十三週 至第十四週	2 伏縫(枕の覆)	二時間	伏縫の標本及枕の覆。
自第十四週 至第十五週	3 三つ折縫(風呂敷)	三時間	三つ折縫の標本及風呂敷。
第一週		十五週 三十時間	
運針 素縫 本縫	各種麩の掛け方標本。		
麩のかけ方			
1 平麩			
イ 大針小針			
ロ 雌針雄針			
2 隠麩			
練習			
自第二週 至第三週	三時間	同上。	

記入欄		第三學期	
自第三週 至第五週	1 三つ折ぐけ(風呂敷)	四時間	新け方各種の掛圖及標本風呂敷。
自第五週 至第七週	2 本ぐけ(紐襷)	四時間	
自第七週 至第十七週	3 耳ぐけ(前掛)	六時間	
自第十七週 至第十週	襦袢各部の名稱及種類	一時間	襦袢各種の掛圖若しくは標本。
自第十週 至第十一週	一つ身襦袢部分縫	十時間	一つ身襦袢及部分縫の標本。
自第十一週 至第十五週	1 袖 2 身頃		
	3 衿 4 袖附け		
第三學期		十週	二十時間
運針	一つ身襦袢仕立方		
1 仕立上げ寸法			
2 標附け方			
4 縫ひ方順序			
4 仕立方			
自第八週 至第一週	十五時間	一つ身襦袢。	

自第八週  
至第九週

綿布繕ひ方

1 接き方

イ片返し

ロわりはぎ

第十週

普通衣服の種類

三時間

接き方各種の標本掛圖。

二時間

衣服各種の掛圖若しくは標本。

# 教授細目

第一學期 十五週 凡そ三十時間

題目 裁縫用具の名稱及用法  
並其整理

第一週二時間

要旨 裁縫科の目的及用具の名稱用法並其整理の方法を知らせるのが主眼である。

区分

第一時 裁縫科の目的及用具の名稱。

第二時 裁縫用具の用法及其整理。

準備

針、針刺、鋏、指貫、糸卷、篋、尺度、新臺、針箱等。

針箱等。

教授上の注意

一 裁縫科は本學年から始めて之を課するので

第四學年裁縫教授細目

あるから、教授の始めに當り先づ本科の目的の大略を説話し、次に用具について兒童の既知事項を問答するがよい。

一 用具は最も兒童に適切なものを備へて置いて之を示すがよい。第一時の教授が終つたならば左の用具に各自の學年及姓名を記入して持參させる。

針、縫針(二本)、新針(二本)、針刺、鋏、糸(二色)、糸卷(層糸卷トモ三枚)、篋、尺度、針箱、運針用布。

一 本科では鋏針等の如き危険の恐あるものを使用する上に器具の種類も亦多いので動もすれば亂れやすいから、教授の際は特に深く此點に注意して最初から良習慣を附けるやう務めるがよい。

記入欄

### 題目 運針法及其姿勢

第二週一時間

要旨 針の持ち方運び方及姿勢の取り方を知らせるのを以て要旨とする。

準備

針及運針用布並姿勢圖。

教授上の注意

- 一 兒童は針の中程を持ち拇指と食指とを固定し背を彎曲しやういから、本時間は深く此點に注意して最初から良習慣を附けるやうつとめるがよい。

### 題目 運針練習

自第二週至第九週十五時間

要旨

運針は總ての縫ひ方の基本であるから十分練習することの必要なことを知らせ、確實に實習させるのが主眼である。

區分

- 自第一時至第四時 素縫。
- 第五時 素縫及糸の結び方。
- 自第六時至第七時 本縫。
- 第八時 本縫及糸のつぎ方。
- 第九時 本縫及糸のつぎ方。
- 自第十時至第十一時 運針及糸の結び方。
- 自第十二時至第十三時 運針及糸のつぎ方。
- 自第十四時至第十五時 運針及糸のつぎ方。

準備

運針用布、糸針糸の結び方、つぎ方、つぎ方、つぎ方等の掛圖及標本並紐。

教授上の注意

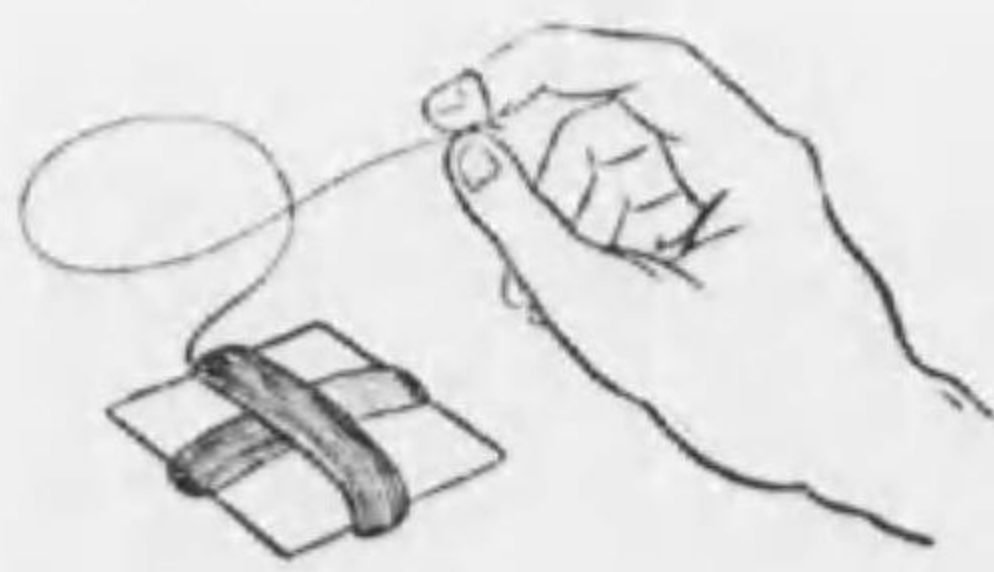
- 一 運針を授くるには最初に素縫を課し、稍熟した後に本縫を授けるがよい。
- 一 素縫は針の持ち方及運び方等を練り迅速に運針させるがよい、此の際用ひる糸は四五寸の長さで終を結ばないのがよい。
- 一 本縫は針目の大小縫ひ線の屈曲等がないや

記入欄

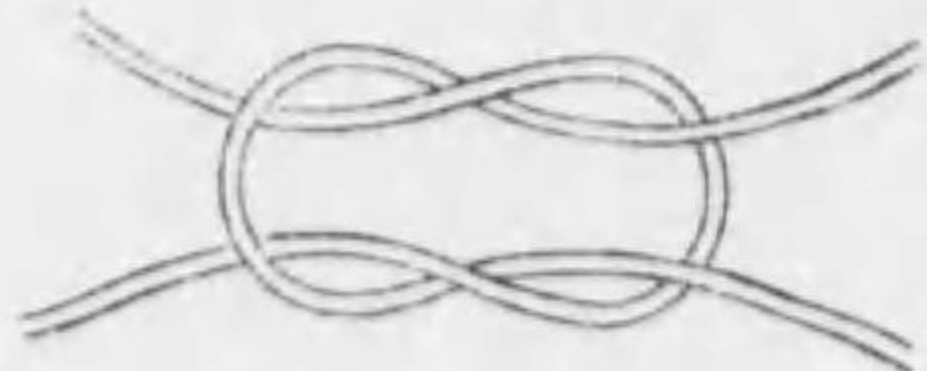
- 一 う運針させねばならぬ。これは布と同じ長さの糸を針に通して運針させるのである。
- 一 運針用布は最初一枚で練習させ稍熟するに従ひ二枚を合せて縫はせる。
- 一 運針の際兩手の間隔は始め二三寸とし熟するに従ひ四五寸の隔りでさせるがよい。
- 一 運針の要は習熟にあるから、各學年とも毎時の始若くは終に必ず二三回之を課するがよい。又運針用布は每學期の終には之を洗濯させるがよい。
- 一 糸の結び方を授ける際は兒童の知つて居る處を問答して後、種類名稱、用法等を説明し、次に紐を取り實地に結び方を示しつ、其順序方法を授けるがよい。
- 一 糸の縫ぎ方中、結びつきを授ける際は、未熟の兒童にあつては糸のぬける恐れがあるから、はた結びをした後一針返して縫はせるがよい。
- 一 糸の留め方を授ける際は豫め糸の留方の掛

第四學年裁縫教授細目

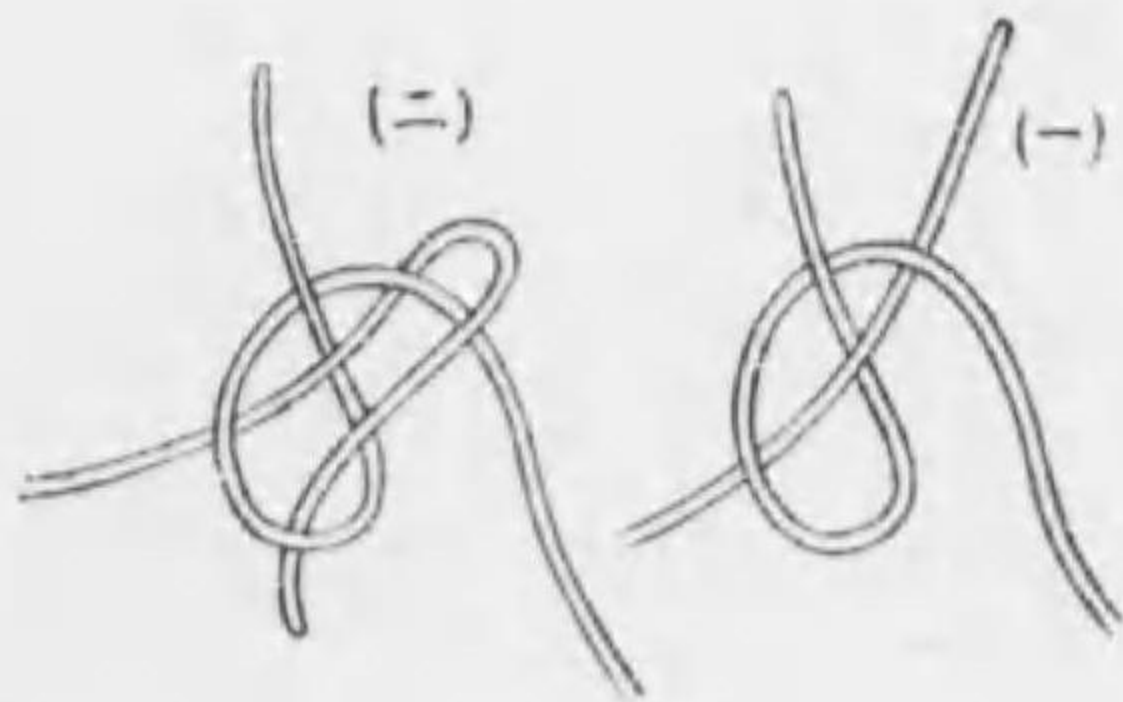
びすむめと



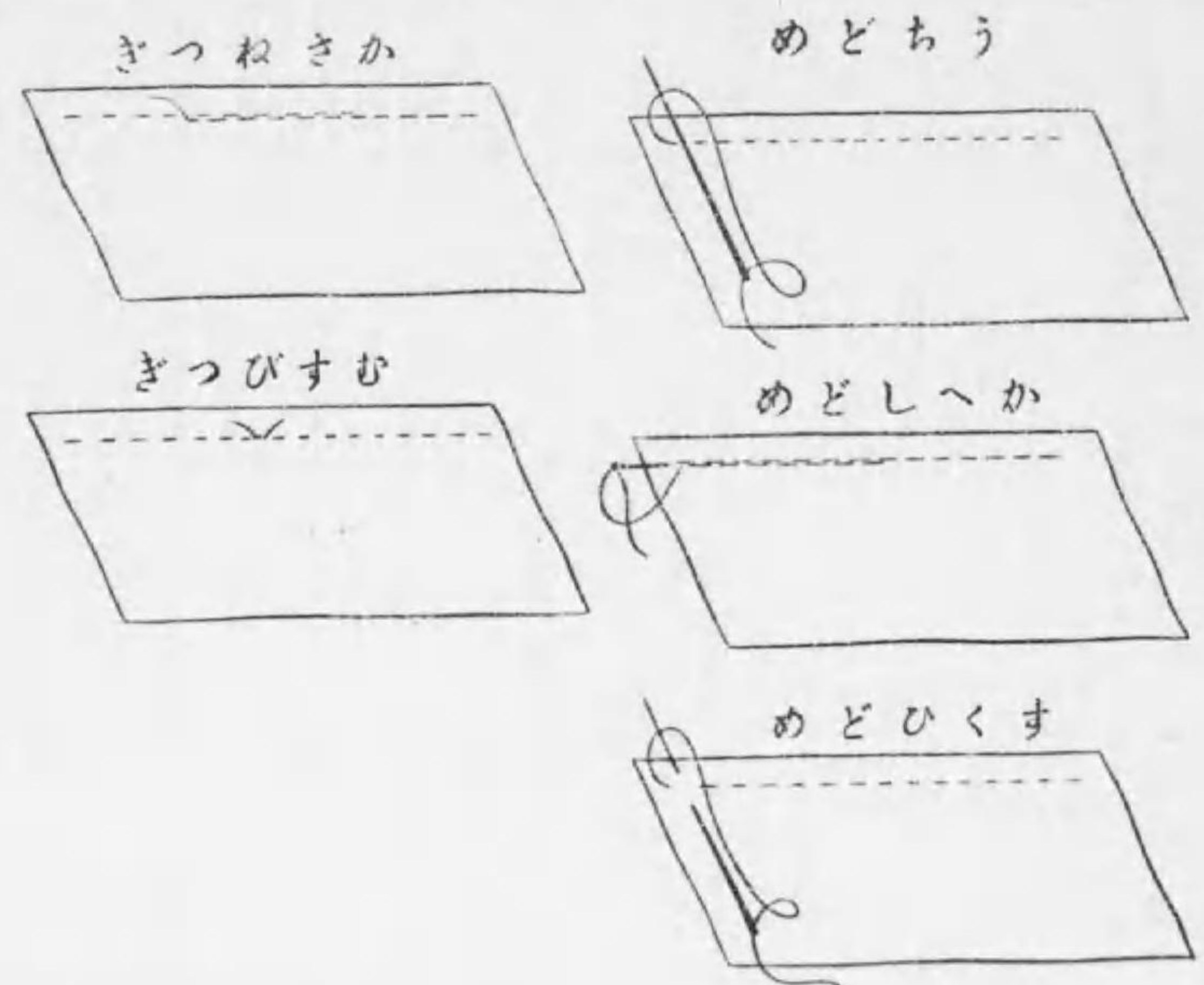
びすむまこ



ひすむたは







圖若くは標本を用意し、これを示して糸留の必要な理由を説き、後種類名稱用法等を練習させるがよい。  
 各種の留方を練習させるには先づ運針用布で本縫を練習させ、後其終りを留めさせるがよい。

題目 雑巾

自第十週至第十二週五時間

要旨 雑巾刺し方の種類名稱及用法を授けて其方法を確實に會得させるのが主眼である。

区分

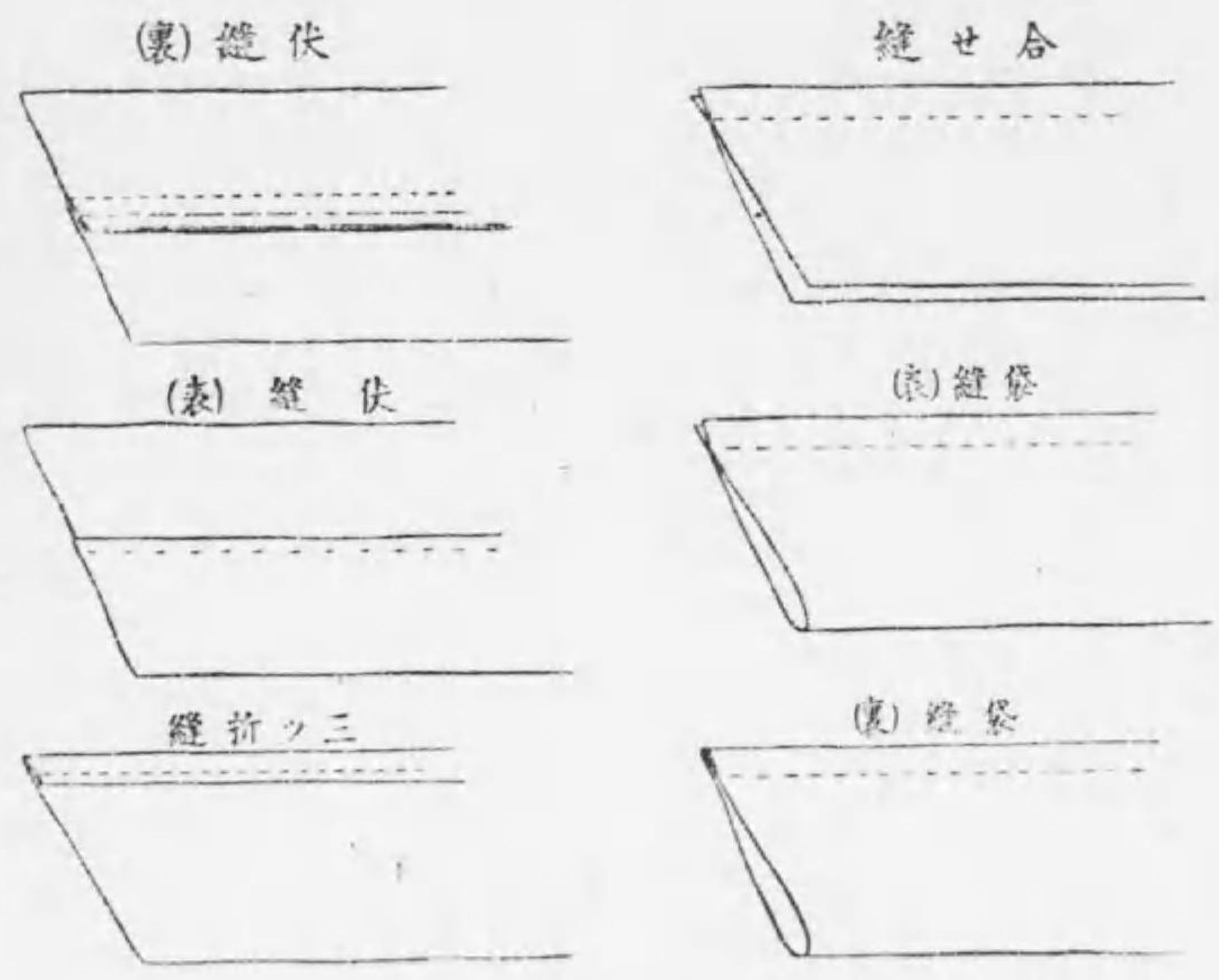
自第一時至第三時 直線練習及運針練習。  
 自第三時至第五時 並行直線練習及運針練習。

準備

雑巾刺し方の各種及用布。

教授上の注意

一 雑巾用布は無地木綿並幅長さ五寸位のもの



を二つ折として用ひさせるがよい。

題目 各種縫ひ方

自第十二週至第十五週七時間

要旨 各種の縫ひ方を授けて其方法を確實に了解させ其技に熟させるのを以て要旨とする。

区分

自第一時至第二時 袋縫(糠袋)。  
 自第三時至第四時 伏縫(枕の覆)。  
 自第五時至第七時 三つ折縫(風呂敷)。

準備

各種縫ひ方の標本及掛圖用布等。

教授上の注意

一 本科教授の際は豫め各種縫ひ方の標本及掛圖を用意し、これを示しながら其の名稱種類及用法を説明して其方法を了解させるがよい。  
 一 近時糠を使用するものが少ないから、袋縫

教授の際糊袋を授けてもよい。

### 第二學期 十五週凡そ三十時間

#### 題目 襦のかけ方

自第一週至第四週七時間

**要旨** 襦のかけ方の種類用法及び其の方法を知らせ確實に會得させるのが主眼である。

#### 区分

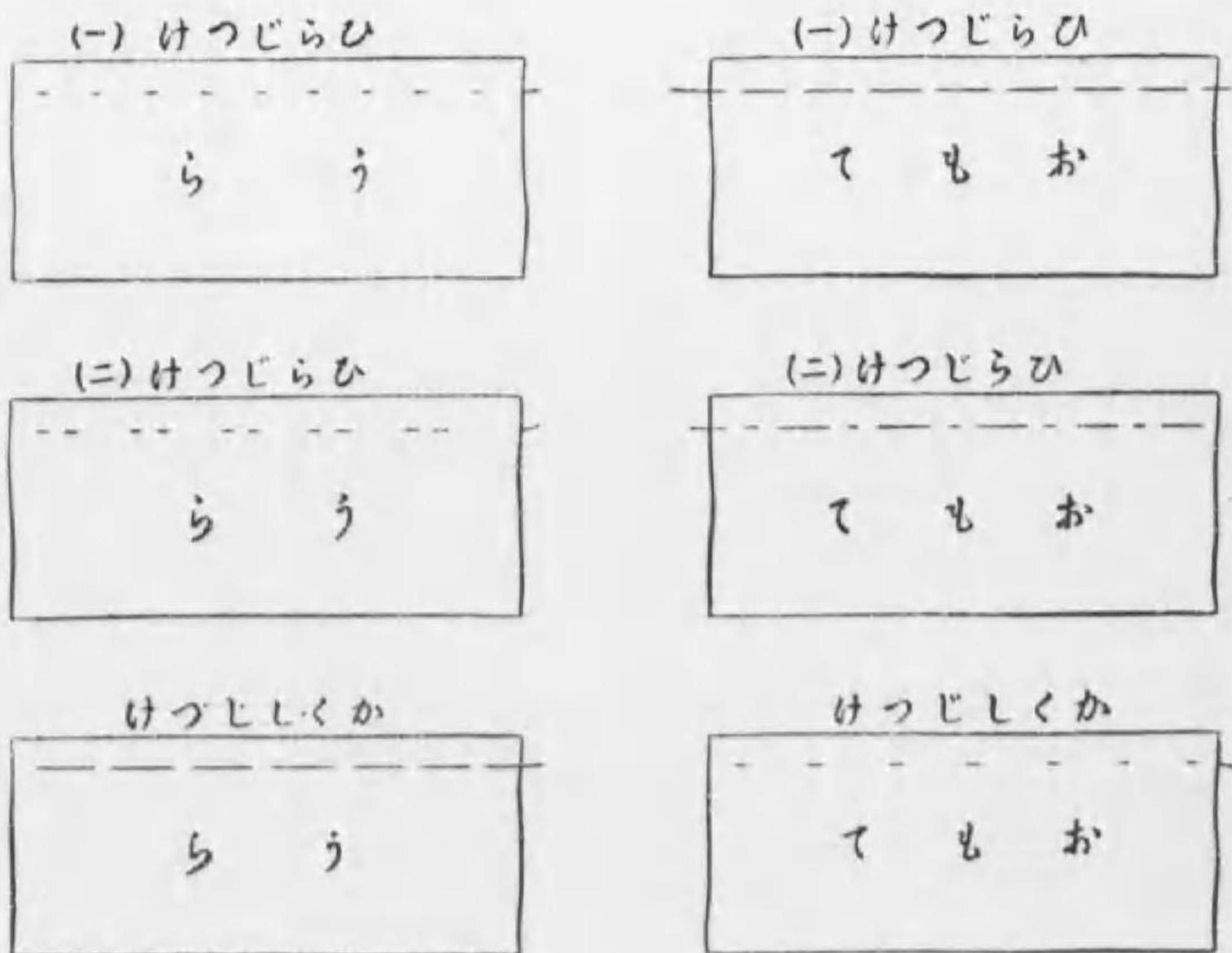
- 自第一時至第二時 平襦。
- 自第三時至第四時 隱襦。
- 自第五時至第七時 練習(紐、襷)。

#### 準備

各種襦のかけ方標本及び掛圖。

#### 教授上の注意

- 一 襦は平襦隱襦何れも布の表からかけさせ、一方は必ず掛針で張らせるがよい。
- 但し掛針の用意がないときには各自に新



#### 題目 衿のかけ方

自第三週至第十週十二時間

**要旨** 衿のかけ方の種類用法及び其の方法を知らせ、其の觀念を確かにさせるのが主眼である。

#### 区分

- 自第一時至第四時 三ッ折衿(風呂敷)。
- 自第五時至第八時 本衿(紐、襷)。
- 自第九時至第十四時 耳衿(前掛)。

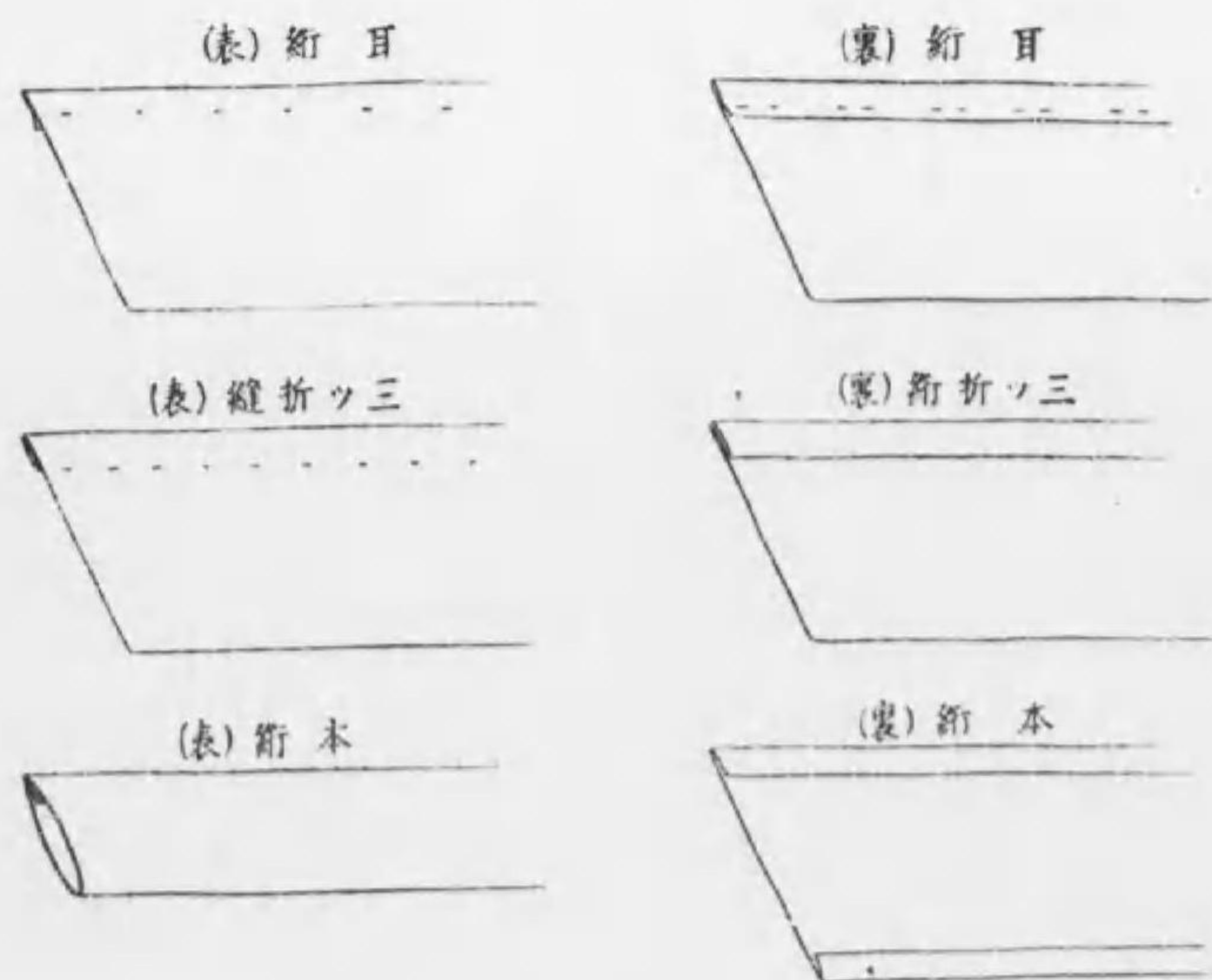
#### 準備

衿のかけ方各種の標本掛圖、風呂敷、紐、襷、單前掛、等の用布。

#### 教授上の注意

- 一 本科教授の際は衿のかけ方各種の標本及び掛圖を用意するがよい。
- 一 衿のかけ方練習の際はすべて掛針を用ひさせ、又其衿の代及び針目は漸次變化して練

け臺を持參させるがよい。



習させるがよい。

- 一 應用として課する前掛は其目的及び用法を問答して次に縫ひ方などを説明し、各自の持参した用布につき裁ち目等の曲つて居るものはよく正させた後に縫はせるがよい。

### 題目 襦袢各部の名稱及び種類

第十週一時間

**要旨** 襦袢各部の名稱及び種類を授けて其觀念を確かにさせるを以て要旨とする。

**準備**

襦袢各種の掛圖及び實物。

**教授上の注意**

- 一 襦袢の掛圖は後前の二圖を畫き、其大きさは實物と比例を失はないやうにするがよい。

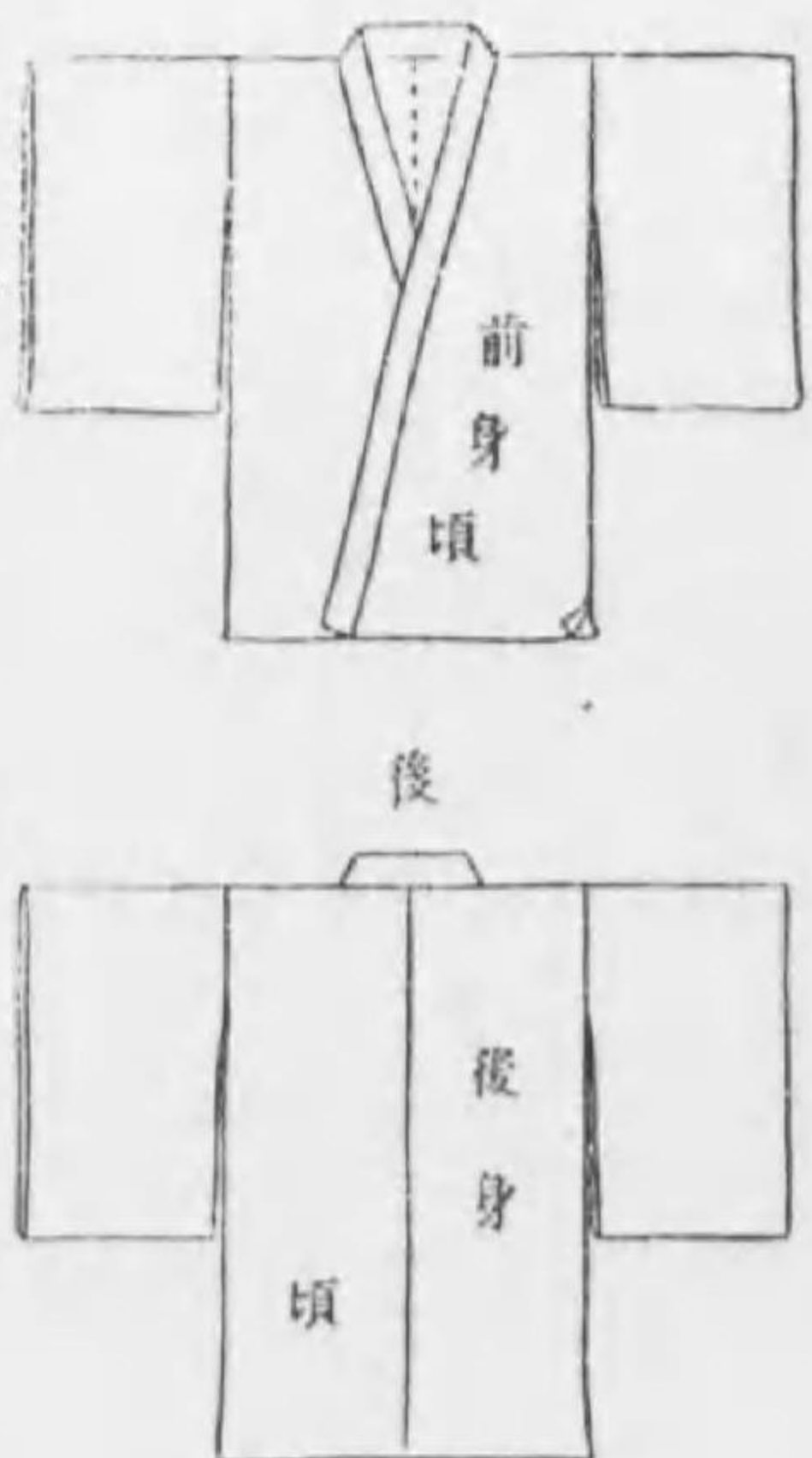
- 第六時 裾掛及び衿付け、運針練習。
- 第七時 衿付け及び衿新け、運針練習。
- 第八時 衿新け及び袖付け、運針練習。
- 第九時 袖付け、運針練習。
- 第十時 同上。

**準備**

一ツ身襦袢の實物及び部分縫の標本。

**教授上の注意**

- 一 部分縫用布は豫て所持して居る半幅七〇センチのもの二枚の外に四ツ割幅六〇センチのもの一枚を用意させるがよい。
- 一 部分縫の寸法は實物と同一にして、兒童の實物に對する觀念を深くするやう注意するがよい。
- 一 衣服縫ひ方の要所は説明のみでは十分な了解を與へ難いから、豫て部分縫の標本をなるべく兒童數丈調製して置き、教授の際之を示して其了解を助けるがよい。
- 一 部分縫は要旨に示すやうに要所の縫ひ方を



### 題目 一ツ身襦袢部分縫

自第十一週至第十五週十時間

**要旨** 一ツ身襦袢部分縫により、各要所の縫ひ方及び新け方を授けて其方法を確實に會得させるのが主眼である。

**区分**

- 自第一時至第三時 袖縫及び運針練習。
- 第四時 衿肩かゝり及び脇縫、運針練習。
- 第五時 馬乗及び裾掛、運針練習。

- 練習させる爲であるから、一回に止めず時間の許す限りは度々練習させるがよい。
- 一 部分縫布について注意を舉ぐれば左の通りである。
- 袖 半幅七〇センチの用布。
- 身頃 半幅七〇センチの用布。
- 衿 四ツ割六〇センチの用布。

### 第二學期 十週 凡そ二十時間

### 題目 一ツ身襦袢仕立方

自第二週至第八週十五時間

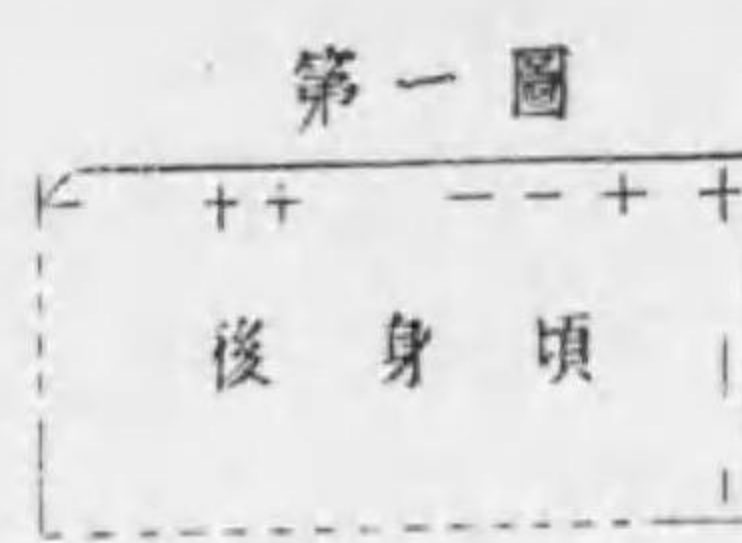
**要旨** 部分縫によつて授けた各要所の縫ひ方及び新け方の練習即ち總合として實物を縫はせ其の技能に熟達させるのを以て要旨とする。

**区分**

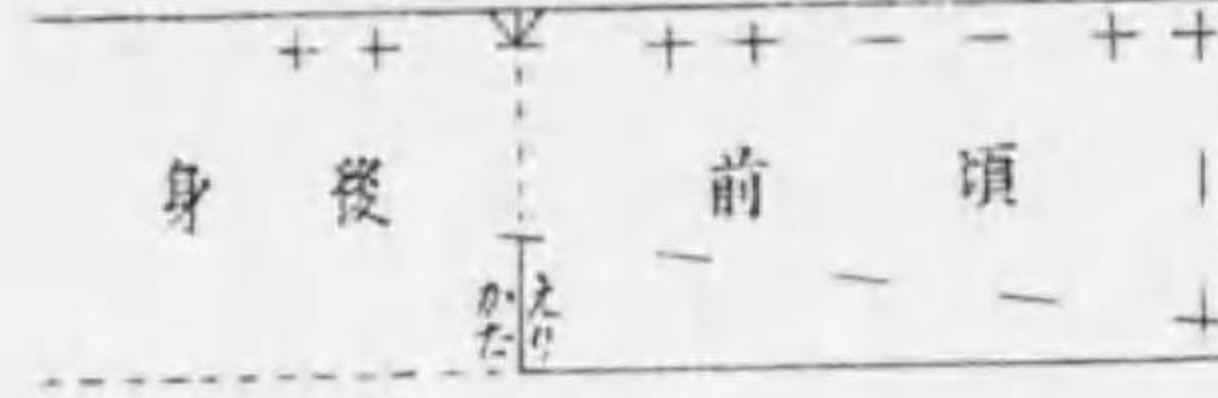
- 第一時 仕立上げ寸法及び運針練習。



りがかたかりえ



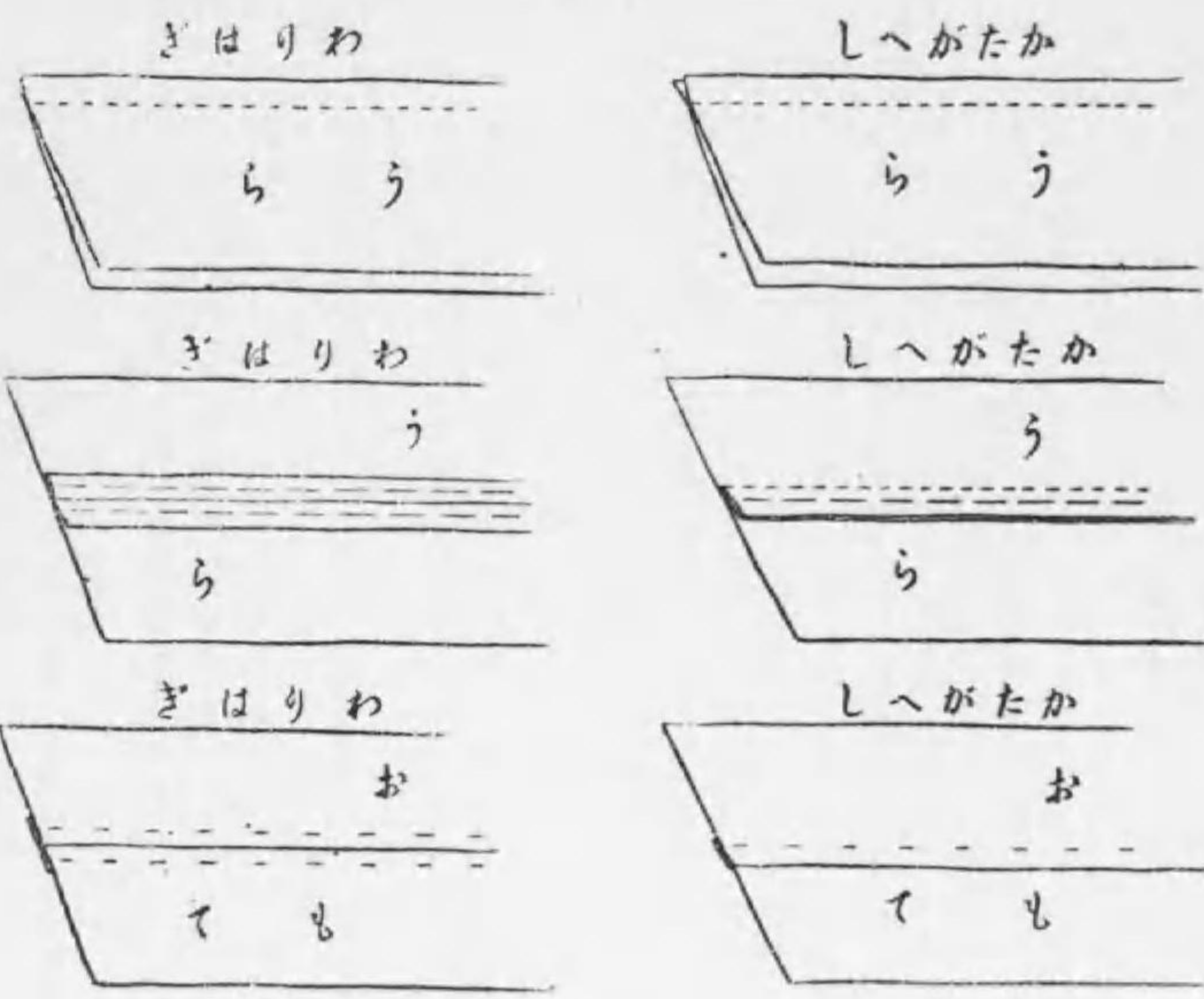
第二圖



第三圖



- 準備  
一ツ身襦袢實物。
- 教授上の注意
- 一 仕立上り寸法を實物と對照して記憶させるがよい。
  - 一 普通の寸法を授けるのであるが、實物には大小があるから實地に當つては家庭の望む寸法によつて縫はせるがよい。
  - 一 標附け方を授ける際には實物の寸法と同じ標附け方の圖を調製して之を示すがよい。
  - 一 縫ひ方順序を授けるには部分縫の縫ひ方順序
- 第二時 標附け方及び縫ひ方順序。  
 自第三時至第五時 袖縫及運針練習。  
 自第六時至第七時 脇縫。  
 自第七時至第八時 馬乘及び運針練習。  
 自第八時至第九時 裾掛及び運針練習。  
 自第十時至第十一時 衿附及び運針練習。  
 自第十二時至第十三時 衿新及び運針練習。  
 自第十四時至第十五時 袖附及び疊み方。



- 題目 綿布繕ひ方 接ぎ方
- 自第八週至第九週三時間
- 要旨 綿布繕ひ方の種類及び名稱用法等を授けて其方法を確實に了解させるのを以て要旨とする。
- 区分
- 第一時 かた返し。
  - 第二時 同上 練習及わりはぎ。
  - 第三時 同上 練習。
- 準備
- 一 序を復習し、後之を總合して説明を與へるがよい。
  - 一 疊み方については兒童既知のことを問答して後、更に順序正しい説明を與へ十分了解させて實習させるがよい。
  - 一 仕立上げた後には解き方の順序方法をも授け置くがよい。

はぎ方の各種標本及び掛圖。

教授上の注意

- 一 接ぎ方の必要な事を説き既習の合せ縫、袷のかけ方等を問答した後、接ぎ方の實習をさせるがよい。

題目 普通衣類の種類

第十週二時間

要旨 普通に用ふる衣服の種類を授けて其觀念を確實にさせるのが主眼である。

準備

衣服の種類、掛圖及び實物若くは標本。

教授上の注意

- 一 本課を授けるには、豫め普通に用ひる衣服の種類、掛圖及び實物若くは標本を用意することが肝要である。

# 第五學年裁縫教授細目

## 教材配當表

第一學期		十五週	四十五時間	備
週	題目	時間	準	備
第一週	運針 肌着に關する知識	一時間	晒木綿、木綿縮フランネル等の二三種。	
自第一週至第四週	一ツ身襦袢練習縫	十時間	一ツ身襦袢。	
自第四週至第九週	車裁襦袢縫ひ方	十五時間	車裁襦袢。	
自第九週至第十週	普通綿布の名稱及丈幅	二時間	普通綿布の標本及び並幅大幅の綿布等。	
第十週	衣服の目的及び種類 單衣各部の名稱及び種類	一時間	單衣の各種及掛圖。	

記入欄

第五學年裁縫教授細目

自第十一週  
至第十四週

十時間

一ツ身單衣部分縫の標本。

二

自第十四週  
至第十五週

五時間

下履の實物。

第二學期

十五週

四十五時間

自第七週  
至第七週

運針

一ツ身單衣實物仕立方

一ツ身單衣の實物又は標本。

1 仕立上げ寸法

二時間

二時間

2 標附け方

十八時間

十八時間

3 縫ひ方順序

四時間

一ツ身單衣及び掛圖。

4 仕立方

四時間

一ツ身單衣及び掛圖。

自第八週  
至第七週

一ツ身單衣裁ち方

積り方

1 裁ち切り寸法

二十時間

一ツ身單衣。

2 積り方

二十時間

一ツ身單衣。

3 裁ち方

二十時間

一ツ身單衣。

自第九週  
至第十五週

一ツ身單衣練習縫

二十時間

一ツ身單衣。

記入欄

第三學期

十週

三十時間

自第一週  
至第四週

運針

子供帯縫ひ方

十時間

子供帯。

自第四週  
至第八週

四ツ身單衣部分縫

十二時間

四ツ身單衣及部分縫。

1 袖縫

イ元録袖

ロ袂袖

2 衿附け方

3 衿附け方

4 裾がけ

綿布繕ひ方

1 繼ぎ方

イ色紙つき

ロ刺つき

衣服整へ方

四時間

繕ひ方の標本掛圖。

二時間

第五學年裁縫教授細目

三

# 教授細目

## 第一學期 凡そ四十五時間

### 題目 肌着に關する知識

第一週一時間

**要旨** 肌着に用ひる地質等に付いての注意を授け、確實に了解させるのが主眼である。

**準備**

晒木綿、木綿縮、フランネル等二三種。

**教授上の注意**

一 前學年で學んだ襦袢の用方等を復習して、肌着に用ひる地質に付いての注意を授けるがよい。

### 題目 一ツ身襦袢練習縫

自第一週至第四週十時間

**要旨** 前學年で授けた一ツ身襦袢の實物の仕立方を練習させ、更に其技能に熟達させるのが主眼である。

**區分**

自第一時至第三時 袖縫。

自第三時至第四時 脇縫。

第四時 馬乗。

自第五時至第六時 裾掛。

第七時 衿附。

自第七時至第八時 衿くけ。

自第九時至第十時 袖附け、疊み方。

**準備**

一ツ身襦袢の實物。

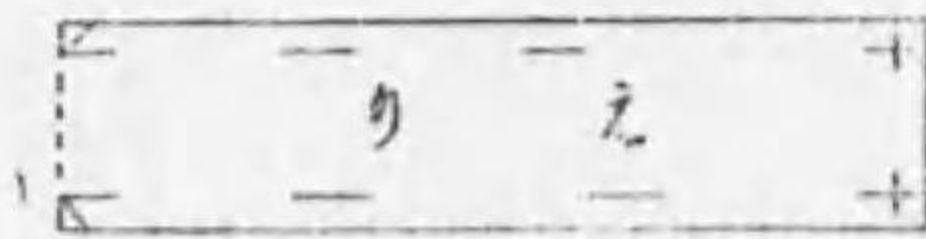
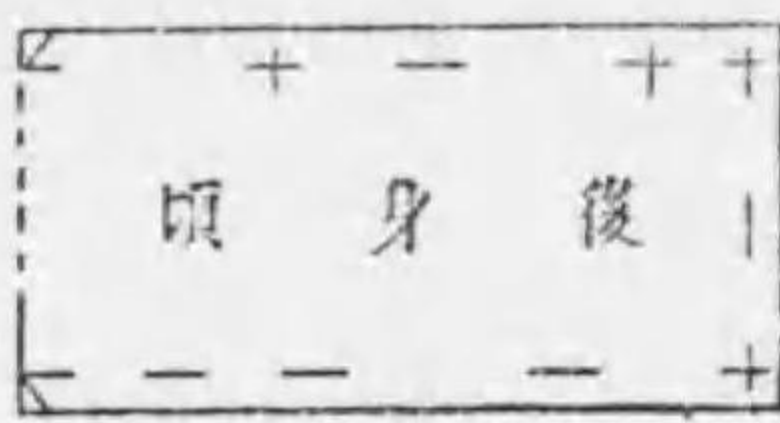
**教授上の注意**

一 既に四學年に於て學んだ材料であるから仕

立上げ寸法、標附け方、縫ひ方順序等についてはよく復習をしつゝ、更に説明を加へて實習させるがよい。

一 疊み方については兒童既知のことを問答して後更に順序正しい説明を與へ十分了解させて實習させるがよい。

車裁襦袢標附方



題目 車裁襦袢仕立方

自第五週至第九週十五時間

**要旨** 車裁襦袢の實物を縫はせ其の技能に習熟させるのを以て要旨とする。

區分

- 第一時 仕立上げ寸法及び運針。
- 自第二時至第三時 標附け方及び運針。
- 第四時 縫ひ方順序及び運針。
- 自第五時至第十五時 仕立方及び運針。

準備

車裁襦袢。

教授上の注意

- 一 仕立上げ寸法を授ける際は實物又は圖を示して、寸法表と對照して説明を與へ後筆記させるがよい。
- 一 標附け方は既習の一ツ身襦袢の順序を復習して後、其の順序を授け要項を筆記させ次の時間に標附けをさせるがよい。

一 ツ身襦袢の縫ひ方順序を復習して後この縫ひ方順序を委しく説明し要項を筆記させ十分了解せしめた後、實物について縫はせるがよい。

題目 普通綿布の名稱及び丈幅

自第九週至第十週二時間

**要旨** 普通綿布の名稱及び運針。

區分

- 第一時 普通綿布の名稱及び運針。
- 第二時 同上の丈幅及び運針。

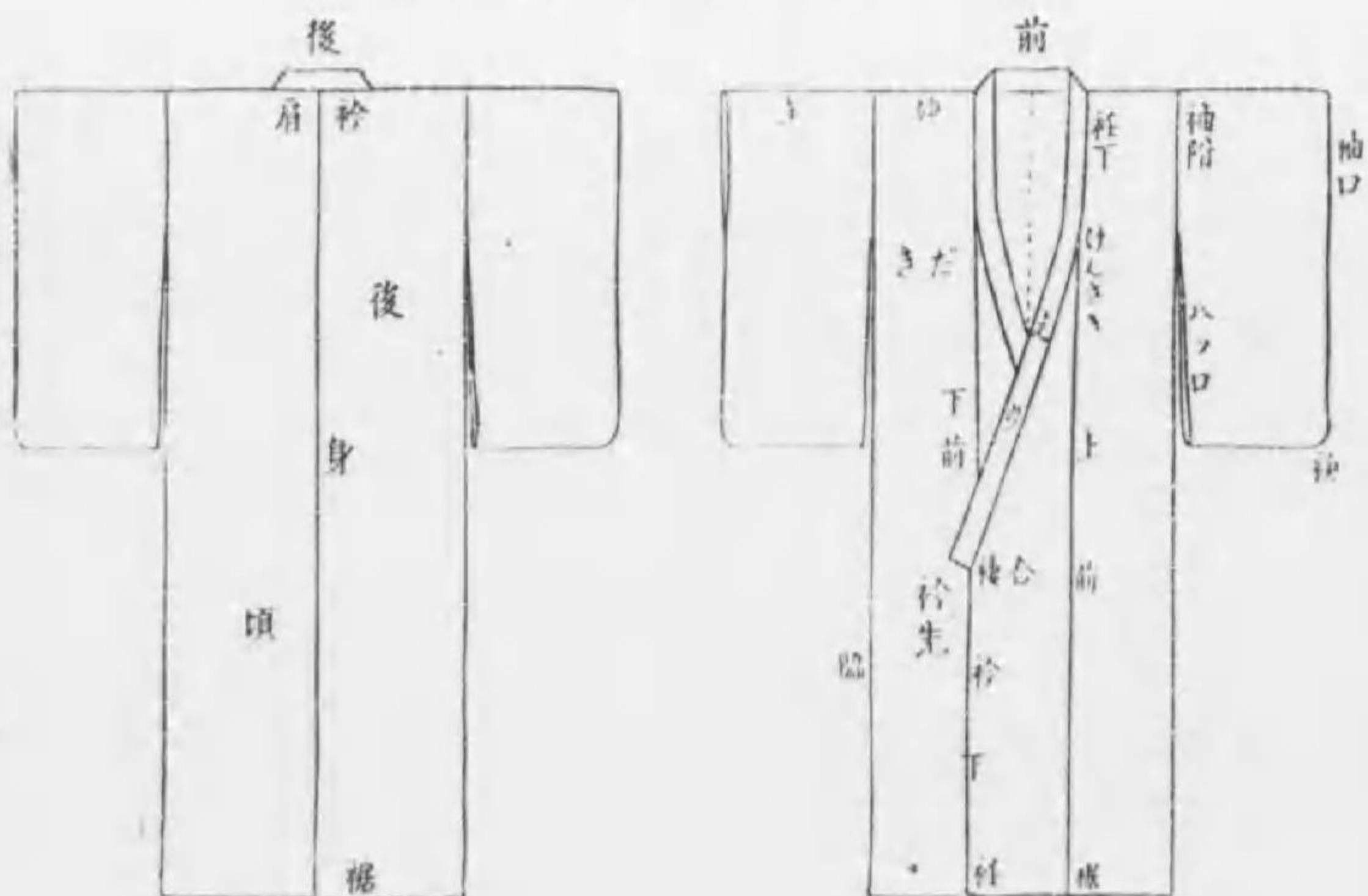
準備

普通綿布の標本並幅及び大幅の綿布。

教授上の注意

- 一 綿布名稱の標本は分類比較觀察等に便ならしめる爲に凡縦五寸横四寸位の厚紙を臺紙とし、之に綿布の下部を少し残して貼附けて置くがよい。

單衣各部名稱





- 一 綿布の丈及び幅を授ける際には綿布一反及び並幅大幅のもの、二三種を用意するがよい。

### 題目 衣服の目的及び種類

第十週一時間

#### 要旨

衣服所用の目的の大略並びに其の種類を授けて、これに對する觀念を深くするのが主眼である。

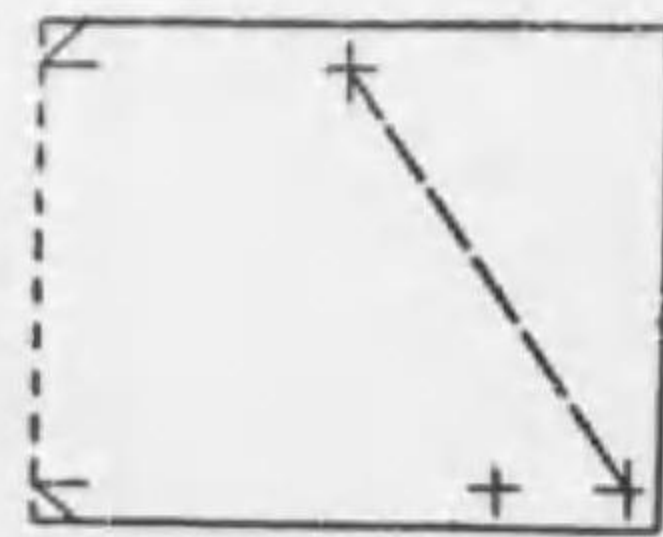
#### 教授上の注意

- 一 衣服所用の目的については先づ兒童の知れる所を話させ、次に大略を説明してこれをよく了解させ、後其の要項を筆記させるがよい。
- 一 衣服の種類を授けるには、豫め普通に用ひる衣服の種類を掛圖及び實物若くは標本を用意するがよい。

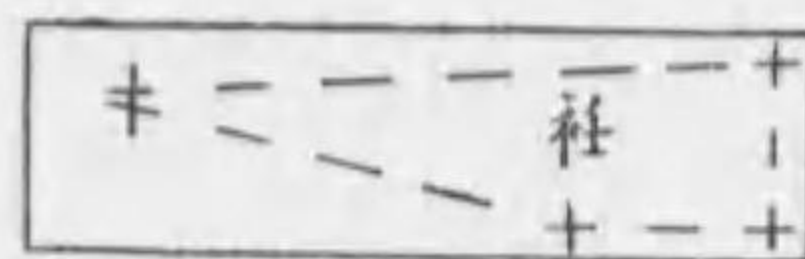
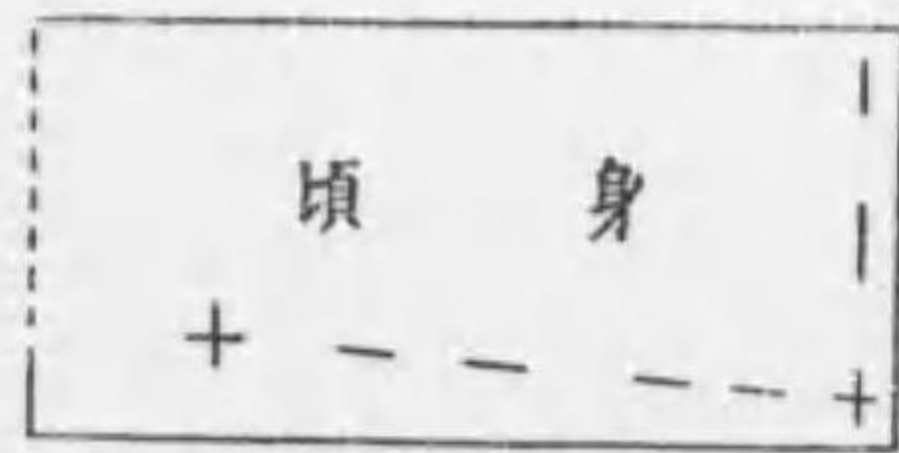
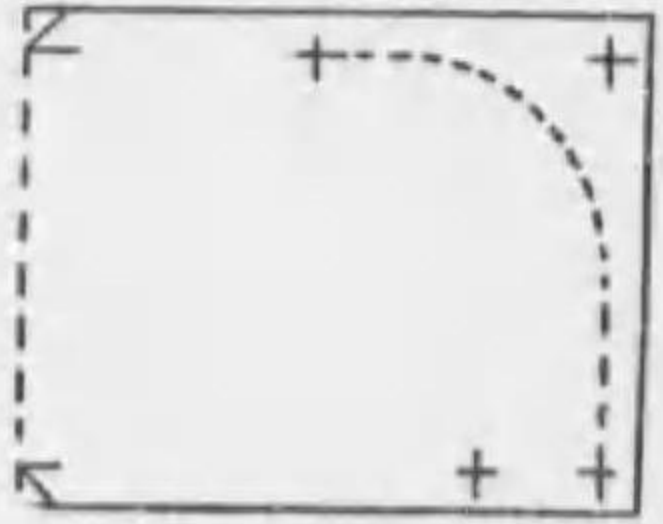
### 題目 單衣各部の名稱及び種類

第十週一時間

筒袖襟附け



元録袖襟附け



**要旨** 單衣各部の名稱及び種類を授けて其の知識を確實にさせるのを以て要旨とする。

#### 準備

各種の單衣及び掛圖。

#### 教授上の注意

- 一 本時に於ては先づ襦袢の種類を復習問答し、次に單衣の種類を授けて掛圖を示し襦袢と對照して各部の名稱を教へよく了解させ、時間に餘裕あらば單衣の圖を畫かせ其の名稱を記入させるがよい。

### 題目 一ツ身單衣部分縫

自第十一週至第十四週十時間

#### 要旨

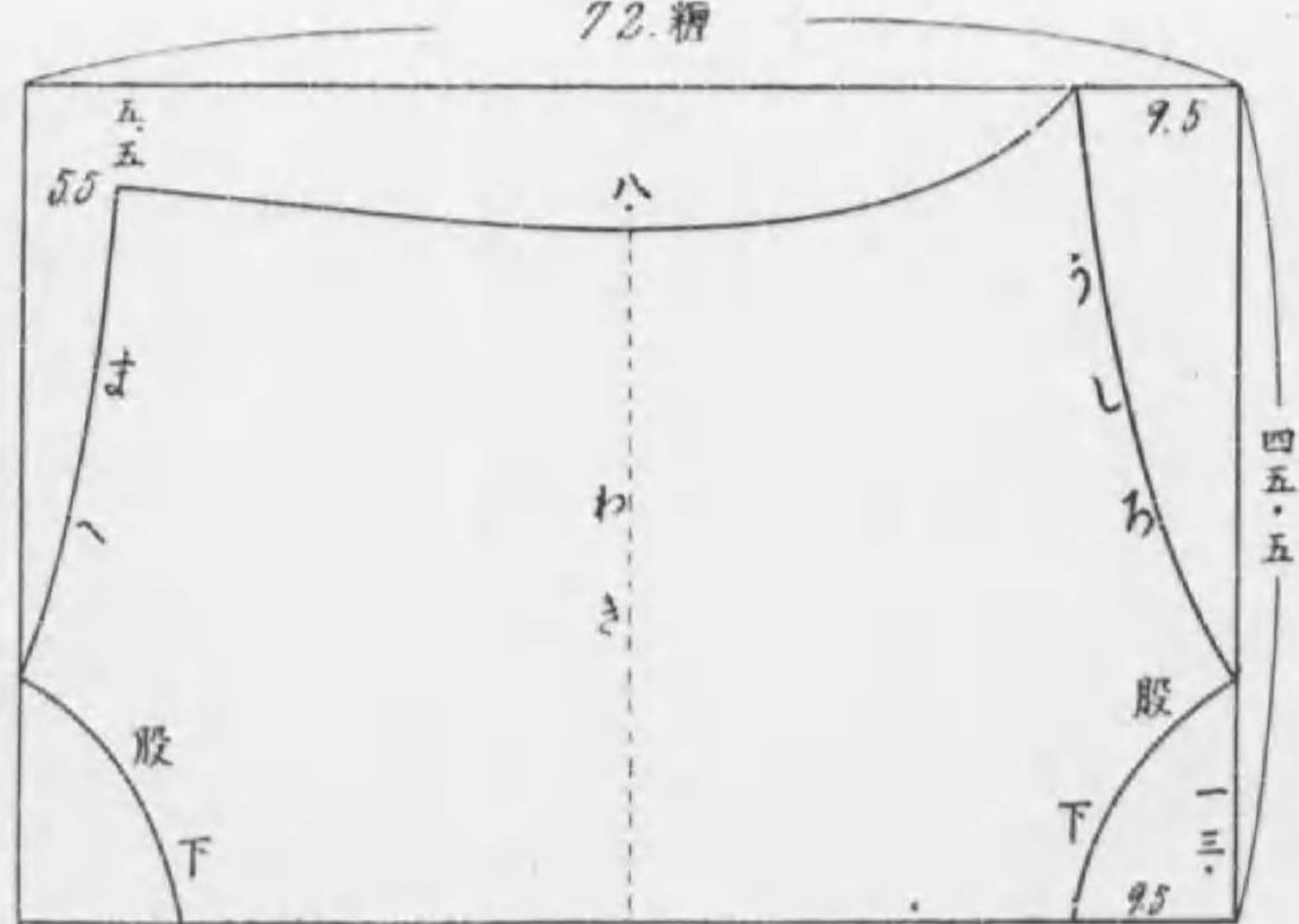
一ツ身單衣部分縫により各要所の縫ひ方及び折け方等を授けて其の觀念を確實にさせるを以て要旨とする。

#### 区分

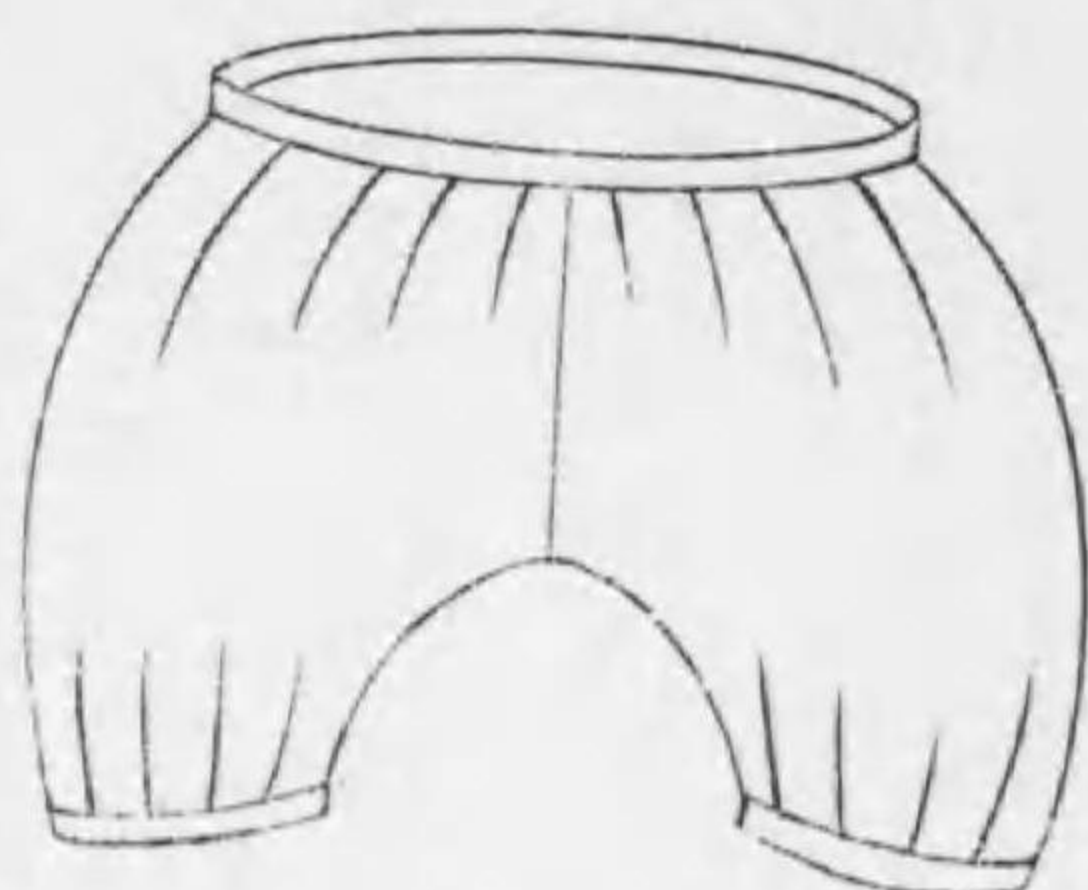
自第一時至第二時 標附け方。

裁ち方圖

72. 裄



出 來 上 の り の 圖



自第三時至第八時 縫ひ方。

準備

一ツ身單衣部分の標本。

教授上の注意

一 筒袖及び元録袖部分縫用布として は半幅一七センチ長さ

三十七センチ位の布を二枚準備させ、最初其の一枚を二つに折り標附けをさせ次に其の縫ひ方順序及び方法を説明し、標本を配布してよく観察させ之に倣つて縫はせるがよい。

一 衤附け方は運針用布七十五センチのもの一枚と七十センチの用布一枚とを前身頃及び衤と見做し、別に定める所の順序及び寸法

題目 肌着類 下履

自第十四週至第十五週五時間

要旨 肌着類の内、下履の縫ひ方を授けて確實に了解させるのを以て要旨とする。

区分

自第一時至第五時 仕立方。

準備

下履の實物。

教授上の注意

一 下ばきの裁ち方は家庭に托せず、教師が便宜の時間に圖の如く裁ち、前以て準備をして置いて授けるがよい。

第二學期 十五週 凡そ四十五時間

題目 一ツ身單衣實物仕立方

自第一週至第七週二十時間

要旨 一ツ身單衣部分縫により各要所の縫ひ方を授けたので、實物を縫はせ其の技能に習熟させるを以て要旨とする。

区分

自第一時至第二時 仕立上げ寸法、標附け方縫ひ方順序。

自第三時至第五時 袖縫。

自第六時至第十八時 脇縫、衤下衤、衤附、裾掛、衤附、衤衤、袖附、疊み方、こき方。

準備

題目 一ツ身單衣裁ち方積り方

自第七週至第八週四時間

一ツ身單衣の實物、又は標本。

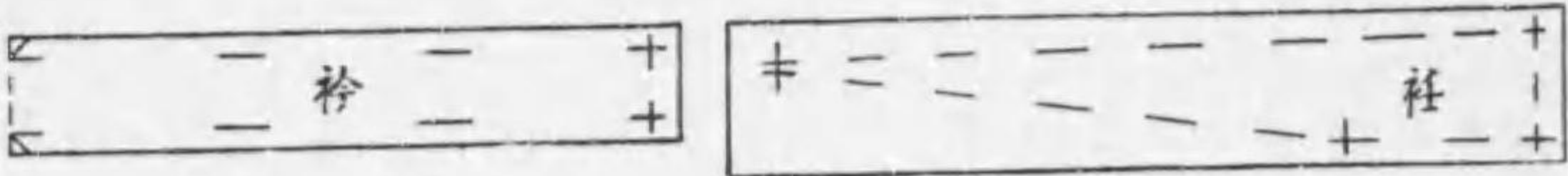
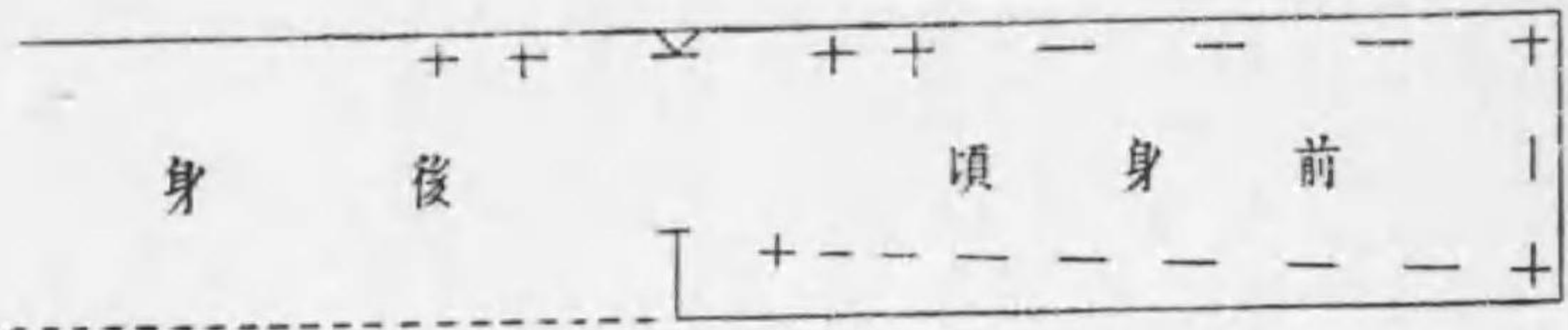
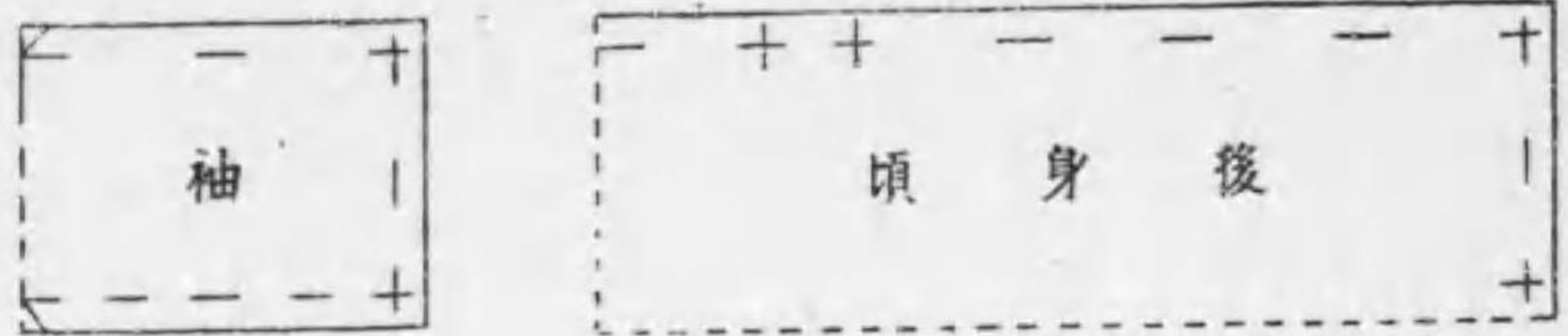
教授上の注意

一 仕立上げ寸法を授ける際は一ツ身襦袢の仕立上げ寸法を復習問答し、後實物又は圖を示し寸法表と對照して説明を與へ其要項を筆記させるがよい。

一 標附け方に於ては部分縫及び襦袢の標附け方を復習し次に圖の如く標附けをさせるがよい。

一 縫ひ方順序を授ける際は部分縫の順序を問答し、次に實物の縫ひ方順序を説いて了解させた後其要項を筆記させるがよい。

一 實物に標を附け終り縫ひ方を實習するに當つては前身頃及び衤の裁ち目の處はかゝり置かせるがよい。



**要旨** 一ツ身單衣の裁ち方、積り方を授けてこれに對する觀念を得させるのを以て要旨とする。

**區分**

自第一時至第二時 裁ち切り寸法及び積り方。  
自第三時至第四時 積り方練習及び裁ち方。

**準備**

一ツ身單衣の實物及び用布並に掛圖。

**教授上の注意**

一 裁ち方は標附け方、縫ひ方と異り、一度これを裁ち誤る時は其用をなさぬものであるから、よく注意して鉄を入れねばならぬ事を授けるがよい。殊に裁ち方は本時間に始めて課するのであるから、布の扱ひ方を委しく説明して了解させた後其要項を記述して置かせるがよい。  
反物には往々染班、織班、等のあるものなれば是等の品を裁つ時は目立たぬ處に入れるやう注意するがよい。又裁ち方をする

きは、其總丈を計り表を中にして織終りの方より巻いて左に置き、順次右へのぼして裁つべきことをも授けるがよい。

**題目** 一ツ身單衣練習縫

自第九週至第十五週二十時間

**要旨** 既に習習させた一ツ身單衣の仕立方を練習させ、其の技能に熟達させるを以て要旨とする。

**區分**

自第一時至第三時 標附け方及び袖縫。  
自第四時至第二十時 脇縫、衿下げ、衿附け、裾掛、衿附、衿紵、袖附。

**教授上の注意**

一 既に學んだ材料であるから仕立上げ寸法標附け方縫ひ方、順序等については復習をしつ、更に説明を加へて實習させるがよい。  
一 疊み方及びとき方については兒童既知のこと

とを問答して順序正しい説明を加へ、十分了解させて實習させるがよい。

**第二學期** 十週 凡そ三十時間

**題目** 子供帶仕立方

自第一週至第四週十時間

**要旨** 子供帶の縫ひ方を授けてこれに對する觀念を深くするを以て要旨とする。

**區分**

第一時 布の扱ひ方。  
自第二時至第四時 標附け方及び心の拵へ方。  
自第五時至第十時 縫ひ方及び仕上げ方。

**準備**

子供帶の實物又は標本。

**教授上の注意**

一 子供帶の長さ、幅等について兒童の知つて居る處を問答し、次に布の扱ひ方縫ひ方等

一 帯の製作については布の取扱ひと心の加減と角の整へ方が最も大切であるから、よく注意をして仕立てねばならぬことを授けるがよい。

**題目** 四ツ身單衣部分縫

自第四週至第八週十三時間

**要旨** 四ツ身單衣部分縫により各要所の縫ひ方を授けて其の觀念を確實にさせるを以つて要旨とする。

**區分**

- 自第一時至第三時 袂袖縫ひ方。
  - 自第四時至第六時 元録袖縫ひ方。
  - 自第七時至第九時 衿附け方。
  - 自第十時至第十三時 衿附け方。
- 準備** 四ツ身單衣部分縫の標本。

**教授上の注意**

一 既に學んだ衿附け方を復習問答した後、其の異なる点につき委しく説明を與へて了解させるがよい。

一 衿先、劍先等の縫ひ方は針目及び糸のこき方等について注意を與へるがよい。

**題目** 綿布繕ひ方 繕ぎ方

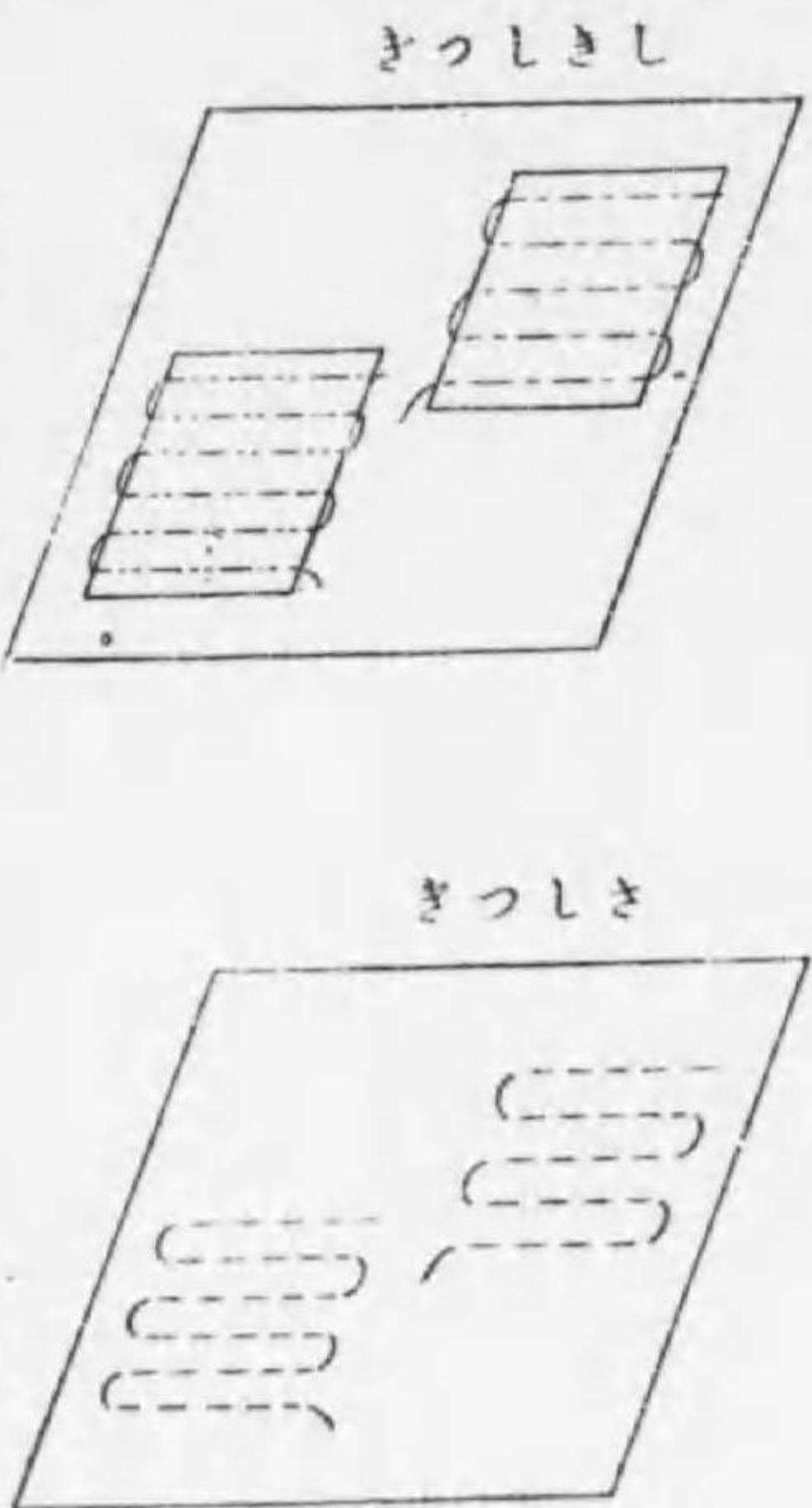
自第八週至第九週四時間

**要旨** 繕ひ方の種類及び用ひ方並に其の方法を授けて、衣服損所の修理に對する觀念を確かにさせるのを以て要旨とする。

**區分**

- 第一時 繕ぎ方 1 しきしつぎ。
  - 第二時 同上 2 さしつぎ。
- 準備** 繕ぎ方の標本。
- 教授上の注意**

一 衣服に損所の出來たときは如何なる處置をなすべきかを問答して繕ぎ方の必要を説き、其名稱及び種類用方等を授け、次に其方法を委しく説明して實習させるがよい。用布は運針用布の外に小切二三枚を準備させること。



**題目** 衣服整へ方

第十週一時間

**要旨** 衣服の整へ方の大切なことを説き、其の方法を授け且つ之等に必要な心情を涵養するのが主眼である。

**教授上の注意**

一 本課教授の際は衣服の整へ方、着け方につき兒童既知の觀念を喚起し、次に衣服の着け方は大いに其の人品に關係があるもので殊に女子は此の注意の必要なことを説き、其の整頓の方法を授けるがよい。

記入欄

# 第六學年裁縫教授細目

## 教材配當表

### 第一學期

十五週

四十五時間

週	題目	時間	準	備
第一週 至第二週	運針 衣服材料の種類及び名稱產地 四ツ身單衣裁ち方 積り方 1 裁ち切り寸法 2 積り方 3 裁ち方 四ツ身單衣實物仕立方	二時間 三時間	織物の標本及び地圖。 四ツ身單衣掛圖。	
自第十二週 至第十二週	1 仕立上げ寸法 2 標附け方 3 縫ひ方順序 4 仕立方	廿五時間	四ツ身單衣。	

第六學年裁縫教授細目

記入欄

第十一週 各種襦袢裁ち方 四ツ身單衣練習縫	二時間 各種の襦袢。 十三時間 四ツ身單衣。
<b>第二學期</b>	
自第一週 至第四週 運針 四ツ身單衣練習縫 前學期の續 本裁單衣裁ち方積り方 1 裁ち切り寸法 2 積り方 3 裁ち方 本裁單衣實物仕立方 1 仕立上げ寸法 2 標附け方 3 縫ひ方順序 4 仕立方 寢冷しらす	十時間 四ツ身單衣。 三時間 本裁單衣、掛圖。 廿七時間 本裁單衣。 五時間 寢冷しらすの標本。
自第十四週 至第十五週	十五週 四十五時間

記入欄

自第一週 至第九週 運針 本裁單衣仕立方練習 平衿の場合 繕ひ方 1 掛接ぎ 2 穴つぎ 洗濯の仕方 衣服材料の性質及び選び方	廿五時間 本裁單衣。 三時間 繕ひ方の標本。 一時間 洗滌品の各種。 一時間 木綿絹麻毛織等の各種。
第十週	十週 三十時間
第十週	

第三學期

# 教授細目

第一學期 十五週 凡そ四十五時間

## 題目 衣服材料の種類及び名稱產地

第一週二時間

**要旨** 衣服材料の種類名稱及び産地を授けて其觀念を確かにさせるのを以て要旨とする。

### 区分

第一時 衣服材料の種類及び名稱。

第二時 衣服材料の名稱及び産地。

### 準備

織物の標本及び地圖。

### 教授上の注意

一 材料の種類名稱及び産地につき他教科で學んだ知識を喚起せしめ、次に標本及び地圖を示してよく觀察させ、説明を與へつ、其

一 用方等を授けて確かな知識を會得させる。第二時の終りに要項を書取らせるがよい。

## 題目 四つ身單衣裁ち方

自第一週至第二週三時間

**要旨** 四つ身單衣裁ち方を授けて、其布の扱ひ方に對する確かな觀念を得させるのが主眼である。

### 区分

自第一時至第二時 裁ち切り寸法、積り方。

第三時 積り方練習及び裁ち方。

### 準備

裁ち切つた四つ身單衣及び用布並に掛圖。

### 教授上の注意

一 既に授けた裁ち方について復習問答をし、

次に四つ身單衣の裁ち方を授けて其要項を記述して置かせるがよい。

一 積り方に於ては應用問題を課して確實な觀念を得させるがよい。

**題目** 四つ身單衣實物仕立方

自第二週至第十週二十五時間

**要旨** 四つ身單衣部分縫により各要所の縫ひ方縫け方を知り、更に其の裁ち方積り方を知つたので、實物を縫はせて其の技能に熟達させるのを以て要旨とする。

**區分**

第一時 仕立上げ寸法及び標附け方。  
 自第二時至第五時 縫ひ方順序及び袖縫。  
 自第六時至第二十五時 脊縫、肩當附け方脇縫、衽附け、衿下衿、裾掛、衿附衿衿、袖附け、附肩揚げ腰揚げ仕方。

準備

四つ身單衣の實物若くは標本。

**教授上の注意**

一 既に授けた部分縫の標附け方を復習し後更に委しく説明を與へて了解させるがよい。

一 縫ひ方順序は一ツ身單衣の縫ひ方順序を復習し、次に其の異なる点につき十分説明を與へて後實物について縫はせるがよい。

**題目** 各種襦袢裁ち方

第十一週二時間

**要旨** 各種襦袢の裁ち方を授け、これに對する正確な觀念を得させるのを以て要旨とする。

**區分**

第一時 一ツ身襦袢裁ち方及び車裁襦袢裁ち方。  
 第二時 本裁襦袢裁ち方。

準備

襦袢の各種、實物若くは標本掛圖。

**教授上の注意**

一 既に授けた裁ち方について復習問答をなし次に各種襦袢の裁ち方積り方を授けて其の要項を筆記させるがよい。

一 裁ち方をするときは其總丈を計り、表を中にして織終りの方から巻いて左に置き、順次右へのばして裁つべきことを注意するがよい。

**題目** 四つ身單衣練習縫

自第十一週至第十五週十三時間

**要旨** 四つ身單衣の仕立方を練習させ、更に其の技能に熟達させるのを以て要旨とする。

**區分**

自第一時至第三時 標附け方及び袖縫。  
 自第四時至第十三時 脊縫、肩當附け、脇縫、衿下衿、衽附け。

準備

四つ身單衣の實物若くは標本。

第六學年裁縫教授細目

**教授上の注意**

一 既に學んだ材料ゆゑ、仕立上げ寸法、標附け方、縫ひ方順序等について復習し、更に説明を加へて練習させるがよい。

一 疊み方及びごき方については兒童既知のことを問答して後説明を加へ了解してから練習させるがよい。

**第二學期** 十五週 凡そ四十五時間

**題目** 四つ身單衣練習縫

前學期の續

自第一週至第四週十時間

**要旨** 前學期に同じ。

**區分**

自第一時至第十時 裾掛衿附、袖附、肩揚げ腰揚げ。



準備

前學期に同じ。

教授上の注意

前學期に同じ。

題目 本裁單衣裁ち方積り方

自第四週至第五週三時間

**要旨** 本裁單衣の裁ち方及び積り方を授けて、これに對する確實な觀念を得させるのを以て要旨とする。

區分

自第一時至第三時本裁單衣裁ち方及び積り方。

準備

本裁單衣の實物又は標本並に掛圖。

教授上の注意

一 既に授けた裁ち方につき其の注意すべき事項を復習し、後本裁單衣裁ち方及び積り方の

方法を授け、其要項を記述して置かせるがよい。  
一 積り方は應用問題を課して其觀念を確實にするやう練習させるがよい。

題目 本裁單衣實物仕立方

自第五週至第十四週二十七時間

**要旨** 本裁單衣裁ち方積り方の方法を知つたので單衣の實物を縫はせ其の技能を練るのが主眼である。

區分

第一時 仕立上げ寸法及び標附け方。

第二時 標附け方及び縫方順序。

自第三時至第二十七時 仕立方。

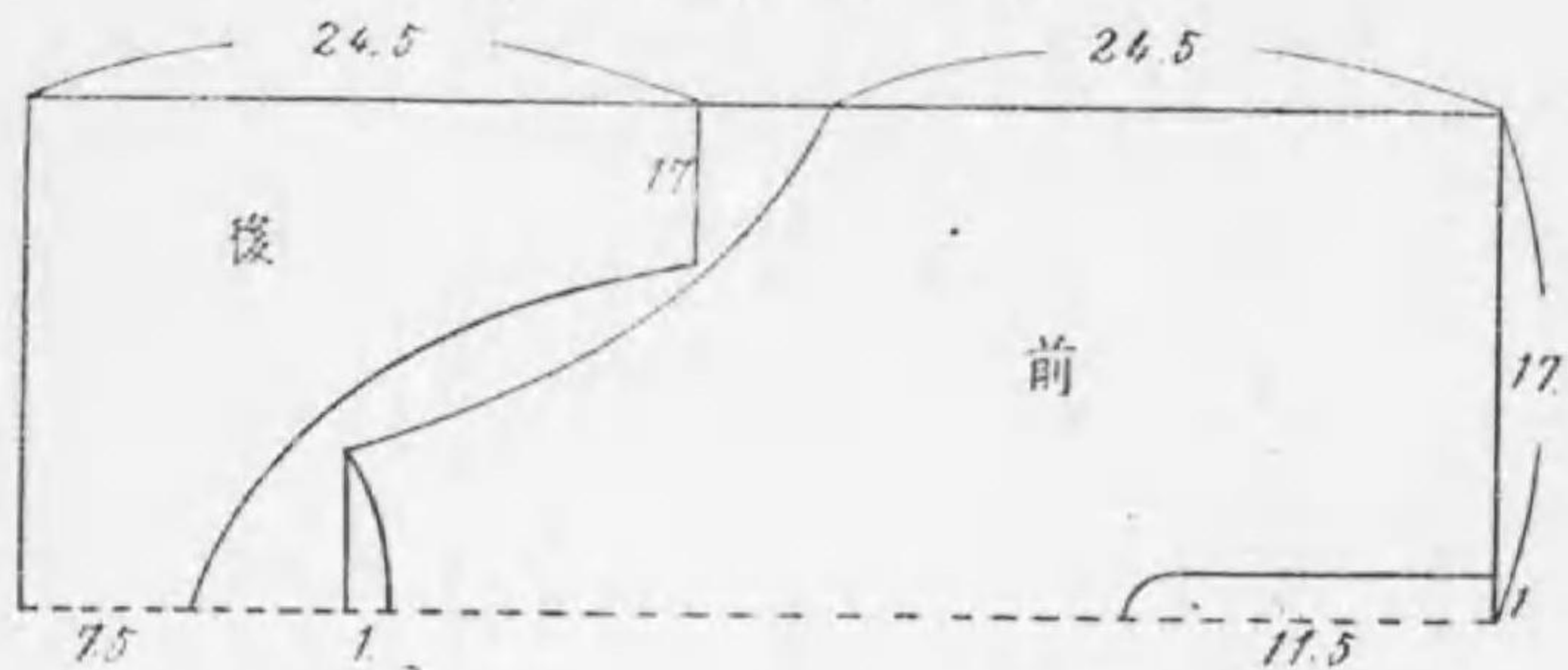
準備

本裁單衣の實物若くは標本。

教授上の注意

一 標附け方及び縫ひ方順序は既に縫ひ終つた

裁ち方の圖



用布 (二三歳用)

並幅長さ

五七モンチ位

別に紐切

七、五幅長さ

五七センチ位

三本

題目 寝冷しらず

自第十四週至第十五週五時間

**要旨** 寝冷しらずの縫ひ方を授けて其の技能に熟せしむるを以て要旨とする。

區分

第一時 標附け方及び縫ひ方の順序。

自第二時至第五時 縫ひ方。

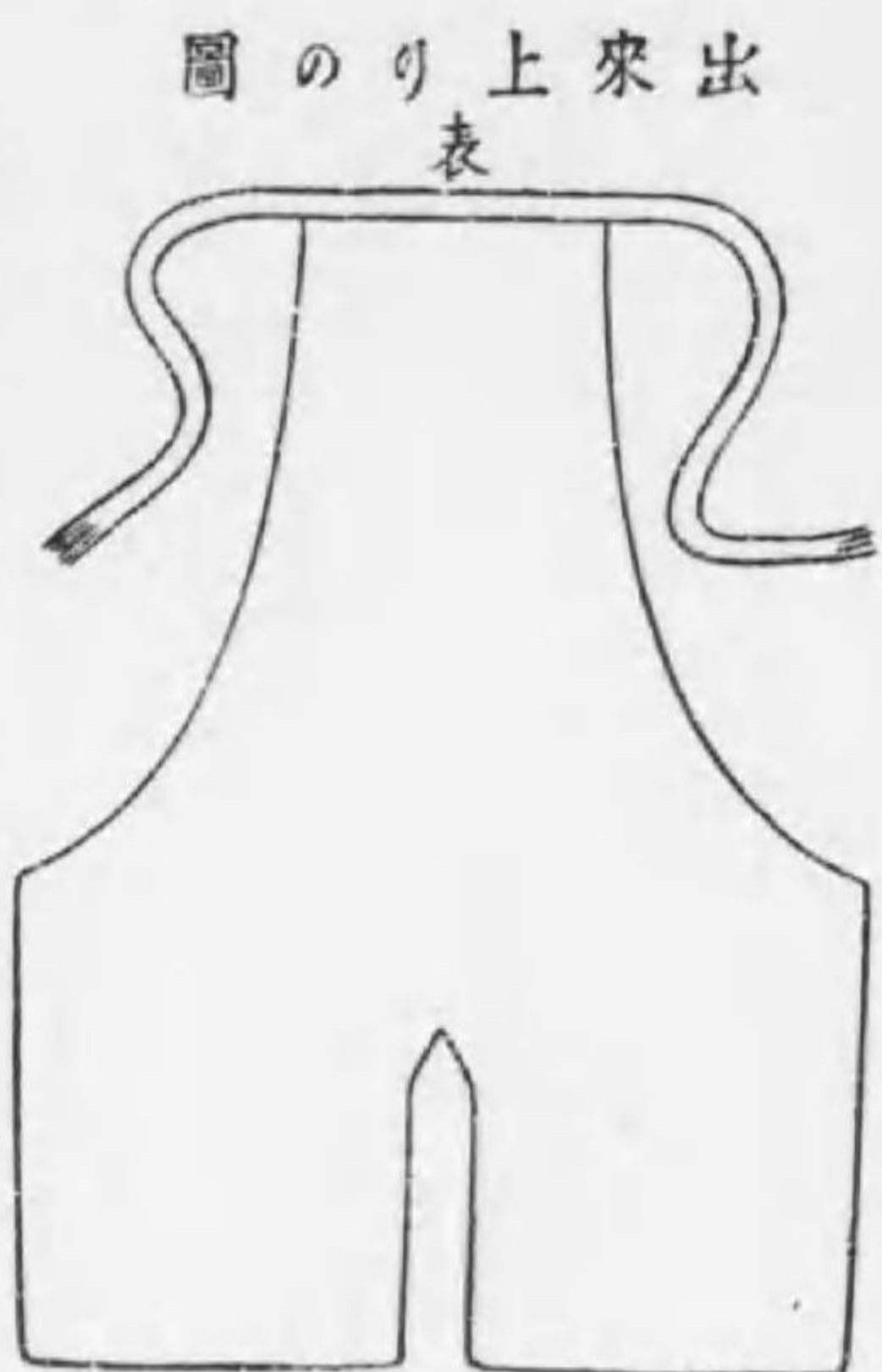
準備

寝冷しらずの實物及び掛圖。

教授上の注意

一 寝冷しらずは縫方に於て單衣より裕の方が簡單であるから單衣を授けず裕の縫方を授ける。されど裁ち方は家庭に托せず教師が便宜の時間に左圖の如く裁つて置き其の縫

一方を授けるがよい。  
一寸法等は家庭の望みに従ひ一定する必要はない。



第三學期 十週 凡そ三十時間

題目 本裁單衣仕立方練習

(平衿の場合)

自第一週至第九週二十五時間

要旨 本裁單衣の仕立方を練習させ、更に其の技能の熟達をはかるを以て要旨とする。

區分

自第一時至第二時 標附け方。  
自第三時至第廿五時 仕立方。

準備

本裁單衣の實物若くは標本。

教授上の注意

- 一 既に學んだ材料であるから仕立上寸法、標附け方、縫ひ方順序等について復習し、更に説明を加へて實習させるがよい。
- 一 疊み方及び解き方については兒童既知のことを問答して後、説明を加へよく了解してから實習させるがよい。

題目 繕ひ方

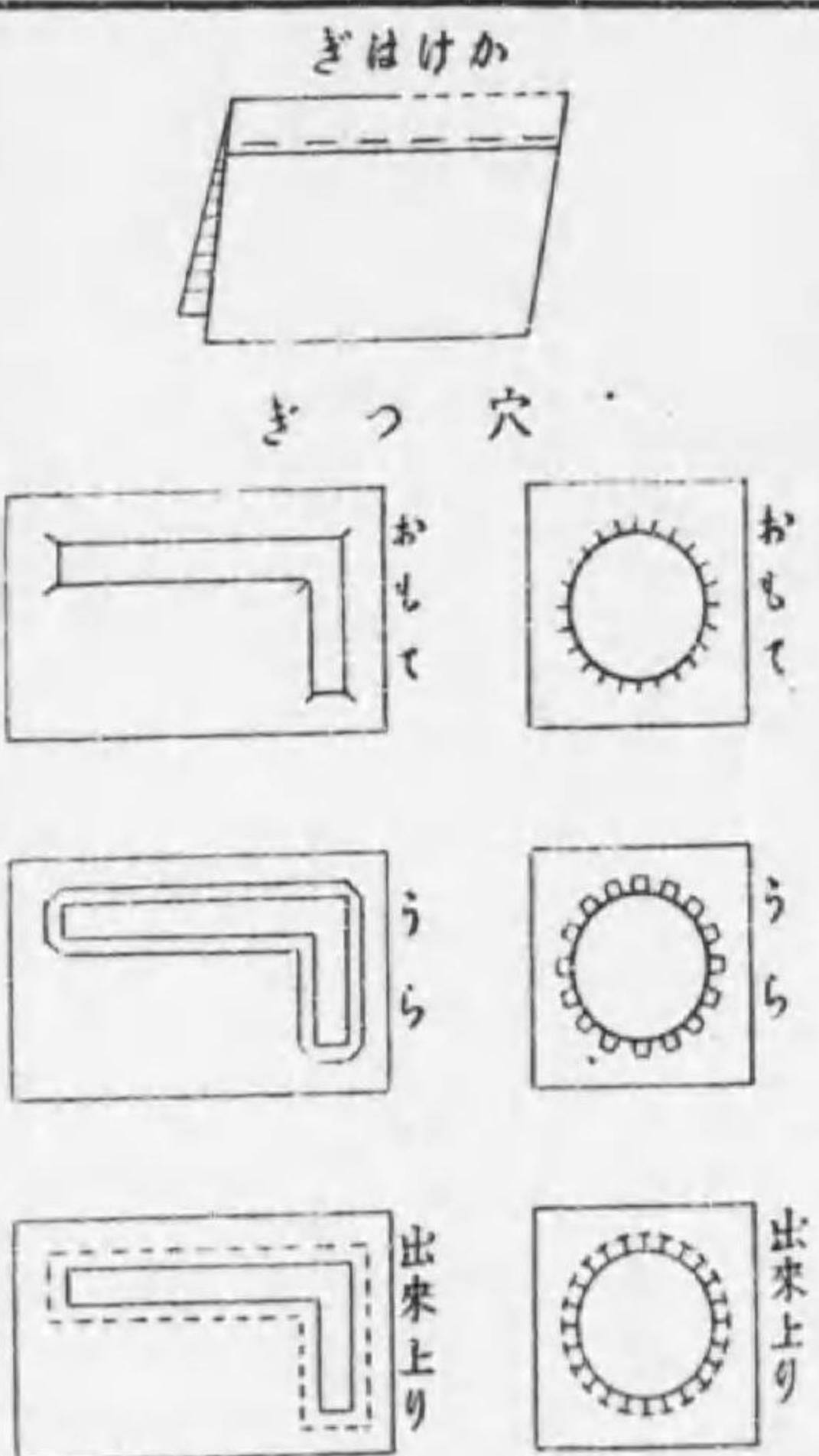
自第九週至第十週三時間

要旨 繕ひ方の種類及用方並に其の方法を授けて

衣服の損所修理についての觀念を確實にさせるを以て要旨とする。

區分

第一時 接き方、かけはぎ。  
第二時 繼ぎ方、穴つぎ。



第三時 練習。

準備

接き方、繼ぎ方の標本。

教授上の注意

第六學年裁縫教授細目

題目 洗濯の仕方

第十週一時間

- 一 既に授けた繕ひ方につき復習し、更に接き方及繼ぎ方の種類並に用方等を授け、次に其方法について委しく説明を與へ了解させた後に實習させるがよい。

要旨

洗濯の心得及其の方法を授けて、清潔の必要なることを知らせ、其の方法を確實に了解させるのを以て要旨とする。

準備

洗濯品の各種。

教授上の注意

- 一 衣服の目的及其の整へ方等を問答し、清潔の必要なることを知らせ、後其の心得及洗濯品の各種並に其方法を教示するがよい。

### 題目 衣服材料の性質及選び方

第十週一時間

**要旨** 衣服材料の性質及び選び方を授けて、これに對する確實なる知識を得させるのが主眼である。

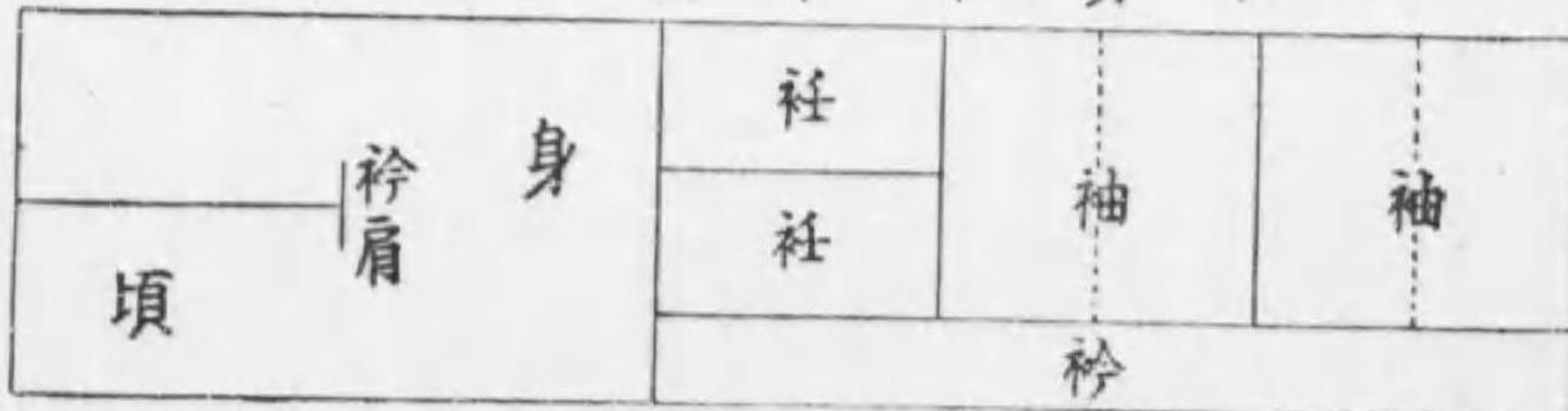
**準備**

木綿、絹、麻、毛織物等の各種。

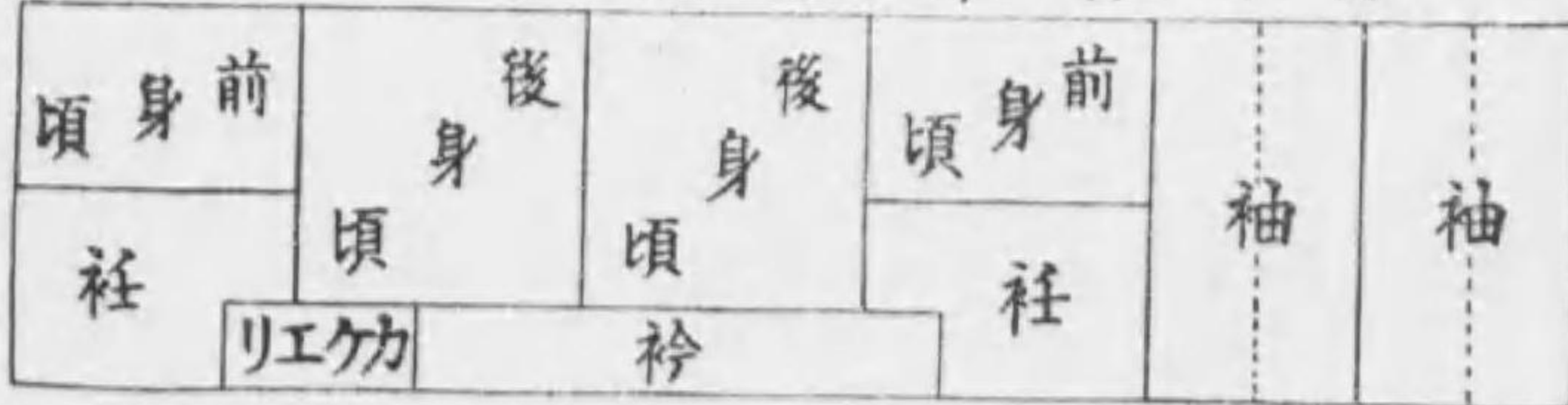
**教授上の注意**

一 衣服材料の品類を復習し、次に材料の性質及び染色等につき委しく説明を與へて、其の概要を知らせるがよい。

一 つ身単衣裁ち方圖



四 つ身単衣裁ち方圖



大正十五年六月廿五日印刷  
大正十五年六月三十日發行

【定價四拾錢】



裁縫教授細目

東京府青山師範學校附屬小學校編纂

版權讓受者 東京府青山師範學校內教育研究會

東京市京橋區南鍋町二丁目一番地  
隆文館株式會社代表者

發行者 星島二郎

印刷者 東京市京橋區弓町拾番地  
福神上太郎

發兌元

東京市京橋區南鍋町二ノ一

隆文館株式會社

振替東京八五三 電話銀座三三四一

東 京 府 青 山 師 範 學 校  
附 屬 小 學 校 編

小尋 學常	小尋 學常	小尋 學常	小尋 學常	小尋 學常	小尋 學常	小尋 學常	小尋 學常	小尋 學常
國語教授細目	算術教授細目	理科教授細目	地理教授細目	修身教授細目	裁縫教授細目	圖畫教授細目	國史教授細目	
近刊	近刊	近刊	近刊	近刊	送料價 四〇	送料價 一、二〇 八〇	送料價 八〇	

三 浦 關 造 譯

定價二圓三十錢 送料十二錢

ソ  
ル  
ツ  
エ  
ミ  
ー  
ル

四六判函入  
羽二重上装

教育者の經典

ルツソーの『エミール』は、教育者の經典であります。『エミール』を讀まないで、教育に従事する人がありましたら、それは非常な無謀であります。無謀といふよりは寧ろ罪惡であります。ルツソーは近代思想の父でありまして、教育上の新思想も彼に淵源してゐます。實に『エミール』は凡ての教育者の座右にしなければならぬクラシックであります。

文學士 青木武助著

定價各八圓 送料各二十四錢

## 大日本歴史集成

菊判背革装  
上中下三卷  
三千五百頁

本書は、本文の各項に古今の典籍から考證に必要な引用を豊富に附して研究の便に資してありますから、本書一部を備へると、國史研究上實に數百卷の参考書を備へたと同様な便宜があります。本書は又、本文に出て來る人物の小傳を作つて附してありますから、事件の背景が徹底的に分ります。地名に對しても同様な注意を用ひて、今日の縣郡町村名を註記し、關係事實を詳細に記述してあります。これは他の歴史書にはないことで、學習上非常に便利であります。本書は又、史上の人物の作つた詩歌等は勿論、後世の人の手に成つたものをも収録し、時には狂詩狂歌等にも及び、又必要ある場合には謠曲淨瑠璃等からも拔萃して、讀者をして乾燥無味の史實に倦ましめない工夫をしてあります。

文學士 青木武助著

定價各九圓 送料各二十四錢

## 續大日本歴史集成

菊判背革装函入  
上下二卷三千頁

大日本歴史集成は、神代から筆を起して、徳川幕府の末期に終つてゐますが、本書はその後を承けて、幕末尊王論の勃興から現代に及び、我々に最も興味ある時代を、非常に面白く記述してあります。著述の體裁は、大日本歴史集成と同様であります。

大日本歴史集成 上卷 神代より平氏の滅亡まで

同 中卷 鎌倉幕府の初めより豊臣秀吉の薨去まで

同 下卷 關ヶ原の役より徳川幕府の末期まで

續大日本歴史集成 上卷 尊王論の勃興より戊辰の役まで

同 下卷 明治の新政より現今まで

櫻井時太郎著

定價各八圓 送料各二十四錢

## 東洋歴史集成

菊版背革装  
上中下三卷  
通卷三千頁

上下五千載、廣袤二百七十萬方里、かの西洋に對し、政治に宗教に、文學に哲學に、藝術に風俗に、截然とその國民姓の特色を發揮せる東洋の史實を拾集し、廣く後世に影響を及ぼせる釋迦、孔子等の大聖は勿論、苟くも一國の盛衰興亡に關與せる人物、又は我國に大なる交渉を有する思想、學術、美術等の事項に至るまで、凡そ史家の研究に屬する一切を網羅して、その變遷發達の跡を精叙せるもの、八ヶ年の努力の結晶にして、上中下三卷三千頁の大著である。教育者は固より、苟くも現下の世界及び支那に留意する諸賢の清鑑を乞ふこと切である。

角田政治著

定價 上卷六圓五十錢 送料各二十四錢  
下卷七圓五十錢

## 最新世界地理集成

菊判洋布装  
上下一卷  
一千七百頁

我國で一番詳しい世界地理書

歴史集成と同様に、本文に添ふるに澤山の參考記事を以てした點が特色です。我國で出版された世界地理書中最も詳細なもので、本書によつて文檢試験を突破した受験者は何千人とあります。

上卷は亞細亞州及び太平洋州を、下卷は歐羅巴、阿弗利加、南北亞米利加の三大州を取扱ひ、寫真版、原色版、地圖を澤山つけてあります。

東京高等師範學校 大塚講話會著

定價各二圓 送料各十二錢

## 實演お話集

四六判各四百頁  
クロス上装函入

本書は東京高等師範學校の先生方と生徒達が、心理や教育の方面から、お話の創作と仕方の研究を目的に組織して居る、大塚講話會の編著ですから、本書のお話は先づ第一に、何れも絶対に安心の出来るお話ばかりです。次に本書のお話は、講話會の會員が、實地に何度も話して見て、よく練り上つたものを書き下したものですから、直ぐそのまゝ、お話に話すことが出来ます。普通の童話書は、話す爲に書いたものでありませんから、そうは行きません。のみならず本書のお話は、一つ／＼に仕方の上の詳しい注意が附してありますから、本書によれば誰でも上手にお話が出れます。第一卷尋常五六年向き、第二卷同上、第三卷尋常三四年向き、第四卷同上、第五卷尋常一二年向き、第六卷幼稚園向き、第七卷青年處女向き、第八卷同上、第九卷話方の研究。

東京高等師範學校 大塚講話會著

定價二圓 送料十二錢

## 話方の研究

四六判函入  
クロス上装

### 實演お話集の最終篇 第九卷

『實演お話集』八卷の總く、りとして、お話の仕方を詳述したものです。講話會同人の多年の経験と研究の結晶として出来上つたものですから、實演者の参考書として比類なき良書であります。飽くまで實際的なるを期しながら、しかも理論的方面を閉却せず、引例該博、叙説懇切、この種の著述中嶄然として一頭地を抜くものであります。在來の類書に多く閉却された、お話會の催し方や會場の整理に關する事柄は固より、ラヂオ童話の實演にさへ論及してゐるのを見ても、本書が如何にアブ・ツッ・デートな著述であるか、分らうと思ひます。

東京高等師範學校 大塚講話會同人著

定價各二圓 送料各十二錢

# 新實演お話集

四六判約四百頁  
洋布極上裝函入

## 澄宮殿下 覽台

第一集 蓮 娘 立川昇藏作  
第二集 猫の卵 檜葉 勇作

大塚講話會は、創立十餘年になり、初期の先輩會員は、今や斯道の大家になつてをられます。隆文館では今度これらの大家にお願ひして、新にこの叢書を發行することになりました。今度は「實演お話集」と違つて、各卷著者別にすることにいたしました。葛原しげる先生、下位春吉先生、岩田九郎先生、山北清次先生等の分も續出いたします。

東京高等師範學校 大塚講話會撰

定價各壹圓八拾錢 送料各拾錢

# 懸賞實演お話

## 實演お話集の姉妹篇

四六判上裝函入  
各約三百五十頁

本書は大塚講話會が、一千圓の賞金を懸けて全國の教育者から募集した、實演お話の入選作を纏めたものです。實演お話とは、お話を話す爲の臺本でありまして、讀む爲に出来てゐる普通のお話と少々違ひます。お話を話す爲の臺本ですから、話し方の注意も附してあり、第一話すに都合よく出来てゐますから、本書によれば、誰でも上手にお話が出来ます。お話の下手な教育者が、教育者として成功した例がありません。本書を見ると、お話の上手な教育者の苦心がよく分ります。第一輯と第二輯が出来てゐます。



醫學博士 高田義一郎著

定價二圓 送料十錢

# 優良兒

を儲ける研究

四六判美装  
口繪付函入

賢き子は父を欣ばし、

愚なる子は母の憂へなり。 — 箴言 —

かう申しますが、優良な子供を儲けることは、親の歡喜と子供自身の幸福のみに止まらず、延いて社會人類の福祉であります。これに反して劣悪な子供は、家庭の悲嘆であり、社會の重荷であります。

本書の著者曰く、『此の小冊子は、優良な子供を儲けたいと欲する人々の爲に、必勝を期し得る好果を擧げるのに、必要な點を會得して貰はうとして書いた基礎篇である、育兒問題の先天論である。』

文學士 木村久一著

定價二圓五十錢 送料十二錢

# 早教育と天才

四六版四百頁  
羽二重裝函入

## 英才教育の指南書

我子を英才に育て上げやうと思ふ親の是非讀まねばならぬ參考書

緒言

第一章 早教育は英才を造る

第二章 キツテの教育

第三章 トムソン兄弟、ミル等の教育

第四章 天才は如何にして生ずるか

第五章 サイデイス博士の教育説

第六章 バール博士の教育法

第七章 ストリーナー夫人の教育法

結語

附録 學校の成績を悪くする諸原因、其他

田中友一・小横貞治共譯

定價二圓五十錢 送料十二錢

# 家庭三一家庭

四六判 函入  
羽二重 上裝  
玻璃版 繪入

有名なフアラ―博士の家庭小説「スリー・ホームズ」の新譯です。譯文は篠田東京高師教授の嚴密な校閲を経ましたから、極めて確かです。  
篠田教授の序文から――

「原作が初めて世に出た時は、作者の名は變名が用ひてあつて、誰の作だか薩張り分りませんでした。が、學生や家庭の間に非常な好評を博して、その賣行は二十餘年を過ぎて、一向に衰へませんでした。初版が出てから二十三年目に、初めて原作者の名前が公表されたのですから、作者の名聲を離れて、書物自身にどの位讀者を引付ける力があつたか、分るではありませんか。……………」

住田 章著

定價一圓二十錢 送料八錢

# 學校中學時代

四六版  
約三百頁

著者の序文から――

「この小説は、有名なフアラ―博士の學校小説「エリック」を雛案したものです。御覽の通りこの小説は、一少年のだん／＼墮落して行く經路を書いたもので、餘り明るい小説ではありません。併しよく讀んで見ると、非常に教へられる小説です。御承知の通り青春期は、云はゞ人間の脱皮期で、非常にクリチカルな時代です。この時代の少年は、特徴として精神の均齊が缺けて居て、一寸した機會からぐれ出し易く、その指導教育に當る父兄や教育者が、彼等の精神の働き方をよく心得て居ないと、取り返しのつかない事になることが少なくありません。この小説は、青春期の少年の心理を巧みに寫し出して居る點に於いて、非常に價值のあるものだと思います。」

六高師範 五段 金光彌一兵衛著

定價二圓五十錢 送料十二錢

## 新式柔道

菊判洋布裝函入  
説明寫眞百餘枚

從來の柔道は、投業のみを重んじて、甚だしく固業を閑却してゐた。その一般に閑却してゐた固業を研究工夫してこれを大成したのは、實に我が金光五段の功績である。固業を閑却してゐた從來の柔道が、近年機會ある毎にその弱點を曝露したことは、何人も熟知するところである。

本書は、著者が十餘年の體驗を經とし、科學的考察を緯として、柔道の全班を系統的に講述したものであるが、殊に第八章固業に行くまでの動作四項、第九章固業説明四十五項の如きは、實に先人未發の金玉的文字であつて、本書の出現は、柔道史上に新時代を劃するものなることを敢て斷言して憚らない。

神宮皇學館 教授文學士 鈴木暢幸著

定價二圓五十錢 送料十二錢

## 伊勢神宮

四六倍大判函入  
ポブリン極上裝

一生に一度は伊勢參宮をしたい。若し出来れば何度もしたい。日本國民は誰しもかう思つてゐることは、伊勢參宮者が年々増加する一方であるのを見ても分ります。併し世間には、伊勢參宮の希望はあつても、いろ／＼な事情からそれを果すことの出来ない人が澤山あります。本書はさういふ人の爲に書かれたものです。職掌柄伊勢神宮のことに最も委しい鈴木文學士の著ですから、内容が絶対に正確なことは申すまでもありません。又神域内の細密な地圖もあり、兩宮を初め重要な個所は、残らず精巧無比なグラビヤ寫眞版で示してありますから、本書を見ると、居ながらにして伊勢參宮をしたと同様であります。

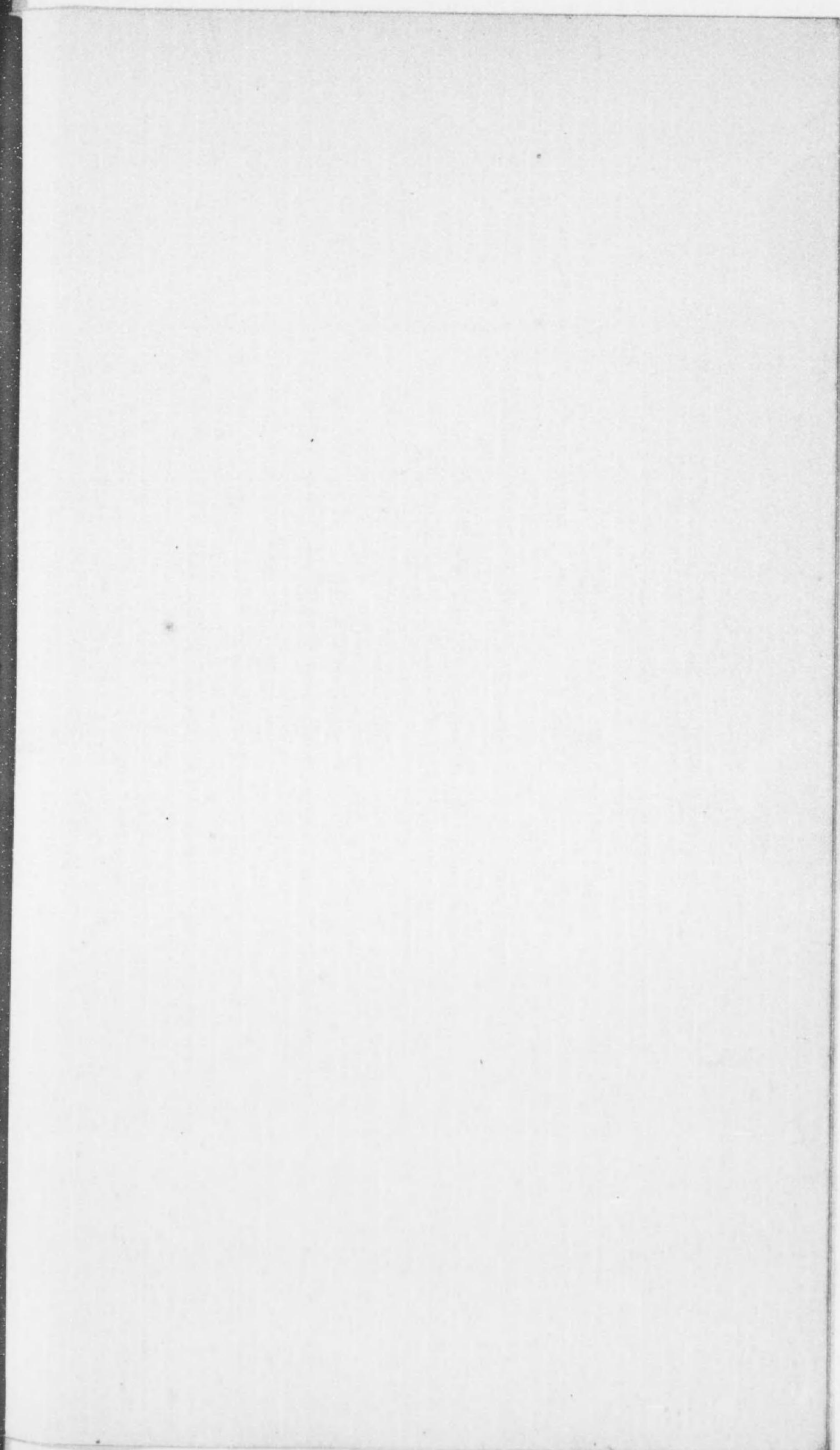
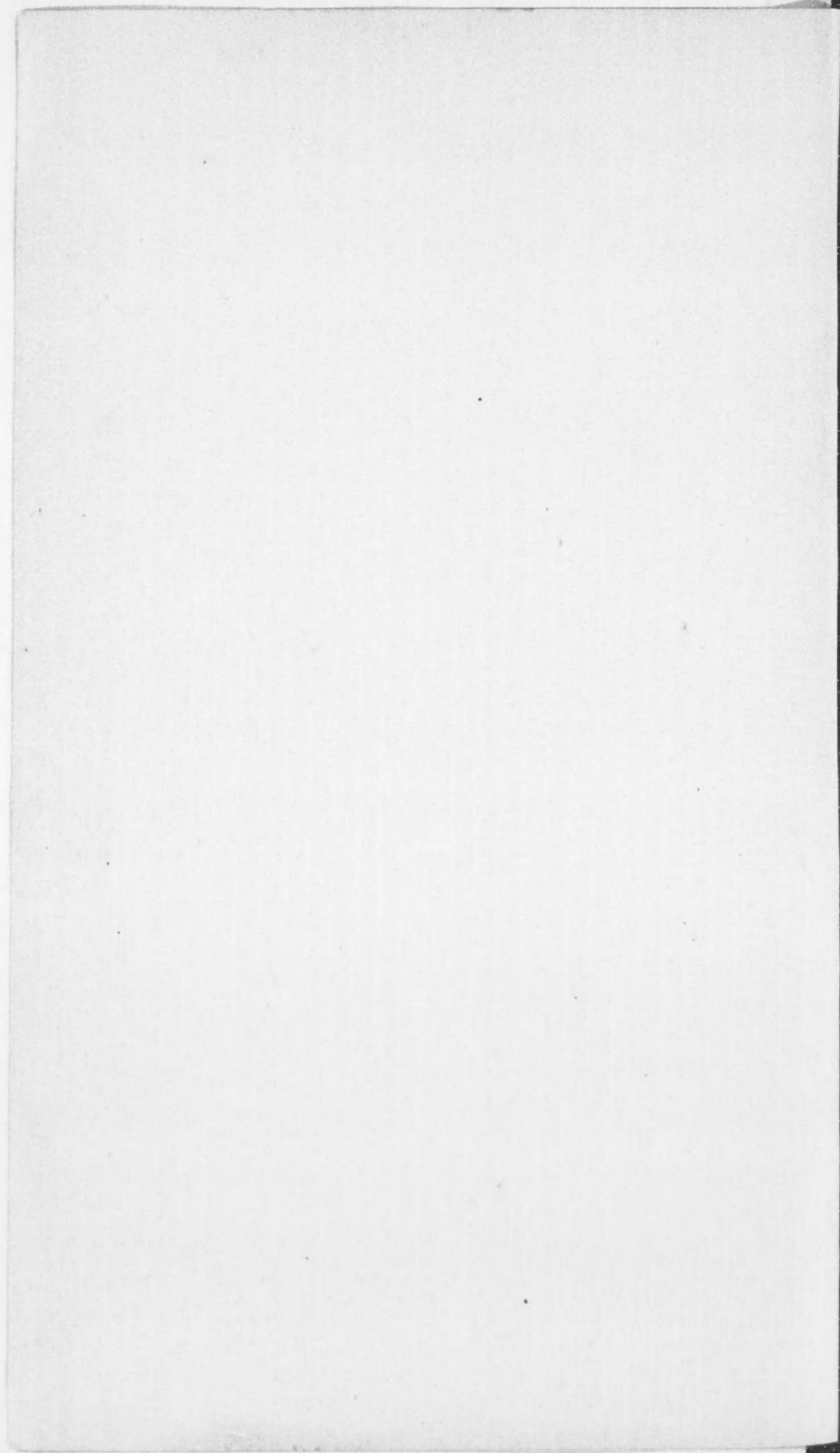
理學博士 三宅驥一・理學博士 草野俊助共譯

ストラス  
ブルガー  
植  
物  
學

定價各三圓五十錢  
送料各十二錢

第一册形態學 第二册生理學 第三册隱花植物

本書は、ドイツ植物學界の泰斗、ストラスブルガー博士外三碩學が、大學の講壇に於ける多年の經驗に基づき、大學用教科書として編纂したもので、形態、生理、隱花、顯花の各部に亘り、記述の繁簡甚だ宜しきを得た、植物學書として他に匹儔を見ない好著であります。今や歐米各國語に翻譯されて、世界共通の最高植物學教科書となつてゐます。譯者三宅博士は、親しくス博士に就いて植物學を專攻された篤學の士、歸朝の際本書を齎らし來り、拮据數年の努力によつて、邦語に譯出したのであります。譯文精確、妥當、流暢、邦語の植物學書中嶄然として頭角を抽づるものであります。



終

5  
1  
1